



TASUKUBESHI TENCHINO KAIKU

賛天地之化育

第135周年
甲府中学・甲府一高
同窓会

2015年5月16日 土 甲府富士屋ホテル

おかげさまで 山日YBSグループは140周年



あなたの、いちばんメディア。
Sannichi YBS Group

山日YBSグループは、1872(明治5)年7月の山梨日日新聞創刊から数え、2012(平成24)年7月に創業140周年を迎えました。

2011年7月から2013年6月までを140周年記念期間とし、山梨の文化振興や地域活性化に向けたさまざまな事業を展開しています。

これからも「あなたの、いちばんメディア。」をスローガンに次から次へ、新鮮な驚きと新しい感動を、お届けします。

山日YBSグループ

山梨日日新聞社
山梨放送
アドブレーション社
サンニチ印刷
YBS T&L
山梨ニューメディアセンター
タウン企画
山梨文化学園
日本ネットワークサービス
デジタルテレビジョン
ファーストビジョン
ウインタック コミュニケーションズ
新聞センター
山日リース
山梨文化会館

甲府市北口2-6-10(〒400-8505)
電話番号案内 055-231-3000

CONTENTS

賛天地之化育

第一三五周年甲府中学・甲府一高同窓会

甲府中学校校歌・甲府第一高等学校校歌・応援歌

ご挨拶 甲府中学・甲府一高同窓会会長

甲府第一高等学校校長

第一三五周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員長

特集・SGH

質実剛健・部活動だより

恩師寄稿

OB強行遠足

広告目次

協賛広告（広告ページ 1～108）

協賛者御芳名

学年協賛者名簿

第一三五周年 同窓会開催の軌跡

編集後記

心はひとつ 甲子園

協賛広告

2

金丸信吾
4

赤池 亨
5

山本淳仁
6

7

25

31

39

42

155

156

158

160

161

162

162

甲府中学校校歌

一、我等は日本に生まれたり

神の御代より一系の

皇統戴く我国に

生れしことのうれしさよ

皇国の栄えは天地と

共に窮りなかるべし

二、大和島根に山めぐる

甲斐の国あり水清き

郷土の歴史顧みよ

我等の務め軽からず

見よや南に富士ヶ嶺は

皇国の鎮めと聳えたり

三、大海原の揺りやまぬ

波をも風をも凌ぎつつ

護れ皇国を諸共に

国民挙りて国のため

撓まず萎縮まず辟易がず

進むぞ大和ごころなる

甲府第一高等学校校歌

一、甲斐の国 み中に建ちて

古へゆ 雄心伝へ

新しき 世の鑑とし

勉めてむ この学舎に

二、日に新た また日に新た

弥高き のぞみをもちて

真なる 理究め

励みなむ 若人我等

三、聳えたつ 芙蓉のたかね

清き哉 甲斐の山川

もろともに 玉と磨きて

賛くべし 天地の化育

起て撃て勝て

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校

仰ぐ芙蓉の峰さやか

穹天まさに轟かむ

見よ精鋭の集へるを

結べる眉に必勝の

誓ひは固しわれらが精鋭

おお

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校

希望の光

一、希望の光 身に浴びて

若人の意気負うて立つ

いま選手等の門出を

空もとどろに 応ふらん

二、敵軍いかに 猛くとも

忍び伏せたる梓弓

鍛えし腕引きしぼり

敵のかぶとを 射落さん

三、見よ穹天の 雲は垂れ

覇権を握るは今なるぞ

蚊竜の意気胸に秘め

いざや起て起てわが選手

鶴 城 に

一、鶴城に桜花咲き

人は皆歓楽に酔ふ

われ一人落花を浴びて

前の取花園に泣きぬ

二、秋来る健児の胸に

強き意気宇宙も空し

桜花の旗ひとたび振れば

醜の群れ微塵に飛ばむ

ヤッツケロ ヤッツケロ

ヤッツケ ヤッツケ

ヤッツケロ

お御崎さん

お御崎さんの神主が

おみくじ引いて

申すには

いつも一高

勝ち勝ち

勝ち勝ち

ソレ勝ち勝ち

ソレ勝ち勝ち

創立一三五周年を迎え 更なる前進を



甲府中学・甲府一高同窓会
会長 金丸 信吾

平成二十七年の甲府中学・甲府一高同窓会の総会、並びに懇親会が、大勢の先輩、後輩の皆様方の御参加により盛大に開催出来ますことを、誠に嬉しく思います。

同窓会執行部役員、そして当番幹事共々、心から歓迎をいたします。

又、平素からの同窓会の運営、活動に対しましては、心温まる御理解と御協力、併せて力強い御指導を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

母校甲府一高は、明治十三年十月、山梨県中学校として開校以来、本年度創立百三十五周年を迎えます。その記念事業の一環として、同窓会名簿の全面的な改編、改訂を行いました。多くの同窓生の皆様の御協力により、より詳細な名簿が六月中には完成の予定であります。これからの同窓会の道標として、又同窓会の活動を今後更に充実、発展させていく為、是非御購入くださいますようお願い申し上げます。

さて、本年度同窓会のテーマは、「賛天地之化育」であります。これは、「苟日新 日日新 又日新」[Be Ambitious]と共に甲府一高の校是一つであり、校歌の中でも歌われている、我々同

窓会の心のよりどころとなっている言葉です。意味は「天地自然が万物を作り育てることを賛ける」であります。この壮大なテーマを当番幹事の皆さんがどのように捉え、解釈し、そして同窓会活動に具体的に展開してくれるのか楽しみであり、大いに期待をしています。

同窓会の目的は、「会員相互の親睦を図り母校教育の本旨を貫徹する」であります。今日は、先輩、後輩の垣根を取りはらい、語り合い、甲府一高同窓生としての絆を深めながら、母校の更なる発展の為の御意見をいただける場になればと願っています。

加えて、輝かしい歴史と伝統を礎に、「文化の香りがする懐の深い進学校」を目指す母校甲府一高の為、同窓生各位に尚一層の御協力をお願い申し上げます。

最後に、山本淳仁実行委員長を先頭に、今日この日の為に大変な御努力と御苦勞をされた昭和五十八年卒と平成十二年卒の当番幹事の皆さん全員に心から敬意を表し、感謝を申し上げます。

あたたかいご支援に感謝

平成二十七年甲府中学校・甲府第一高等学校同窓会総会が、「賛天地之化育」のテーマのもと、盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

同窓会の皆様方には、常日頃より母校や後輩のため、「日新基金」「同窓会奨学金」「強行遠足」など、多方面に渡り物心両面にわたるご支援を賜りまして、心から御礼申し上げます。

五回目となりました今回の「日新基金」では、「はじめまして先輩」と「一高の歴史を綴る」が採択されました。「はじめまして先輩」では、(株)日本テレビ、(株)三菱ケミカルHD、(株)三井住友銀行、(株)熊谷組など、本校の同窓生が社長や副社長として経営し、グローバルな企業として展開している都内の企業を見学させていただきました。生徒は企業内容の素晴らしさとはもとより、諸先輩のお話しに深い感銘を受け、その後の学習活動への大きな励みになっております。また、「一高の歴史を綴る」では、約六〇年間に渡って、校内を中心とする様々な情報や論説を発信してきた「甲府一高新聞」の縮刷版を制作させていただきまして、本校の新聞部が編集したこの縮刷版を県内の公立図書館等に配布することにより、一高の誇る長い歴史と伝統を後世に残す一助になるとともに、在校生にとっても、改めて本校の偉大さを認識し、母校への愛着も一層増してくるものと考えております。



甲府第一高等学校
校長 赤池 亨

次に、小諸に復活して二回目を迎えた「強行遠足」につきましては、女子生徒が悪天候のため中止となりましたが、昭和五三年卒から昭和五八年卒の皆さんをはじめ、多くの皆様方のご協力を得て無事に終えることができ心から感謝申し上げます。今年はずっと昨年のようにマスコミ等からの注目もありませんでした。男子生徒は、全身ずぶ濡れになりながらも、昨年を上回る五三%の生徒がゴールすることができました。子供たちの頑張りに改めて賞賛の言葉を贈りたいと思っています。

昨年度から始まったスーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）では、本県の地場産業であるワインや宝石、伝統工芸品等について調査・分析し、また、その世界的な評価や社会的課題を検討し、その成果を県内だけでなく国外にも発信するという計画で授業を進めております。SGHは、これからの社会で求められる資質や素養を身に付け、世界や日本及び地域においてグローバルに考え行動できる人材の育成には打って付けの事業であります。同窓生の皆様からのご支援もいただきながら、この事業を身のあるものとし、本県のナンバー・スクールとして、更なる飛躍に繋がりたいと考えています。

結びに、同窓会の皆様方には、今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願いするとともに、益々のご発展とご健勝を祈念しまして、挨拶いたします。

賛天地之化育

賛天地之化育

意味もわからずに口ずさんだこのフレーズ

一高生でなければ読むことも

触れることもないであろうこのフレーズ

校歌の最後の最後に出てきて

歌い終わると何かほっとすると同時に「さあやるぞ」という

一高魂を奮い起たせてくれるこの不思議なフレーズ

在学時代に様々な夢をもって

友とともにその夢の実現に向けて

青春の一ページを共に歩んだ母校 甲府一高

いつの時代にも

どんな場面においても

「甲府一高同窓」という

とてつもない大きな伝統と先輩との関係に助けられてきた



第135周年 甲府中学・甲府一高同窓会
実行委員長 山本 淳仁

私ども一人一人の力は小さいかもしれないが

昭和58年卒業と平成12年卒業の

小さな力を重ね合わせれば

この同窓というとても重い重く

偉大な糧は次代に常ぐことができるはずだ

これまで生かしていただいた感謝と

偉大なる先輩 偉大なる母校への感謝を込めて

今一度「賛天地之化育」を声高らかに合唱するために

一生懸命取り組みらせていただきました

本日は至らぬ点多々あらうとは思いますが

一高魂を思いめぐらせあの時に帰って

母校への思いをもう一度奮い立たすきっかけになるような

そんな同窓会になったら幸いです

賛天地之化育

世界へ羽ばたけ — 高校生。

甲府一高は、平成 26 年度～平成 30 年度の 5 年間、文部科学省の指定するスーパーグローバルハイスクール (SGH) に選ばれました。全国では甲府一高を含め 56 校が指定されました。

この事業は、「急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決能力等の国際的素養を身につけ、将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーを高等学校段階から育成する」ことを目的として行われるものです。

甲府一高では、「主体的に課題を解決できる山梨発グローバルリーダーの育成」というテーマのもと、本県のワイン、果樹、伝統工芸品、地場産業品等を題材として、県内の大学や地元企業、行政機関と連携しながら、県内・県外研修や海外研修を取り入れた調査・研究を通じた活動により、「論理的な思考力・判断力」や「実践的なコミュニケーション能力」を身につけた生徒の育成を目指して事業を進めます。SGH 対象クラスは英語科と普通科特進クラスの 2 クラスですが、この活動が全クラス、全校生徒に効果が波及できるように今後取り組んでいくことになっています。

●取組例(山梨のワイン)

■1 年次「グローバルな視点を開く」

「グローバル探究 I (3 単位)」 課題設定と研究方法の探究

日本における第 1 次・第 2 次産業の「グローバル展開」について学ぶ
日本のワイン産業の現状と課題の調査
海外のワイン産業の現状と課題の調査
山梨ワインの世界展開の可能性の調査内容のまとめ

各教科との連携(英語科・地歴公民科・芸術科)

■2 年次「グローバルな視点で考える」

「グローバル探究 II (1 単位)」 調査のまとめと発表

国内外での実地調査および内容の分析
課題の解決方法の探究
研究内容の発表・広報活動

各教科との連携(英語科・地歴公民科)

■3 年次「グローバルな視点で提案し、今後の提案先の実践につなげる」

「グローバル探究 III (1 単位)」 調査の活用

山梨ワインと果樹産業の今後についてのまとめと提案
調査内容の活用法探究・提案・実行・社会貢献
＜提案先＞

・ワイン関係企業(サドヤ、勝沼醸造)
・行政機関(教育委員会、産業労働部、観光部)
・学会(日本ブドウ・ワイン学会)
・模擬国連(参加、提案)

— 実行

各教科との連携(英語科・地歴公民科)

●連携機関(大学・企業等)

■高大連携

- ・山梨大学(ワイン科学等による研究)
- ・山梨県立大学(グローバル化論等による研究)

■東京大学金曜特別講座受講

- ・東京大学(事業に関連した講座の利用)

■行政との連携

- ・教育委員会(知事の海外 PR 時の随行への協力、グローバル化に対応できる思考力・判断力を徹底的に鍛える学科への英語科改編)
- ・産業労働部ワインセンター(情報収集・提案)
- ・観光部観光企画「ブランド」推進課(ブランド戦略)

■外国人研究者による英語講演会

- ・日本学術振興会(社会・人文科学講演)

■企業との連携

- ・サドヤ、勝沼醸造(情報収集・提案・実行)

●国外実地調査

- ・国外連携大学(山梨大学等協定締結大学)
- ・オーストラリアヘンリー高校(共同研究相手校)
- ・公益財団法人 YFU 日本国際交流財団
(異文化教育交流プログラム)

●検証評価

大学と連携して開発するルーブリックにより検証評価する。すべての活動について検証し、その結果をもとに校内評価を行う。その後、甲府一高 SGH 運営指導委員会等の外部評価を受ける。



土屋三郎 つちやさぶろう

1972年卒。ヤマハ(株)勤務中、2度の駐在経験あり。やる気次第で生涯現役で働けるアメリカに惹かれ、退職後渡米。Scott International Services, Inc. を設立し、貿易業を営む。

思っています。10年後は子供に関わる仕事、慈善的な仕事もやってみたいと思っています。行きたい大学が決まっています。で、まずはその大学に入るための勉強ですよ。

土橋 意外にみんなドメスティックなのね。

土屋 慶悟くんだけだよ、海外って。

菅沼 でも、ドメスティックでも、英語って、必要ですよ。

あすか あの、ドメスティックって、どういう意味ですか？

土屋 国内の、というか・・・グローバルとかインターナショナルの反対語、っていえば、わかりやすいかな。



土橋 女の子二人は教育者志望だし。親が外国人とか、もう全然日本人じゃない子供を教えることになるかもしれない。それに、あすかちゃんも中学の先生志望でしょ。もし、海外志向の生徒がいて「わたし留学したいんです」って言ったとき、先生があまりにもドメスティックだと、子供の将来を閉ざすことになっちゃうかもしれないよ。せつかくこうして集まってもらったので、少し「グローバル」ということについて話しましょうか。

グローバル化は義務ではなく権利だと思う

土橋 先に交換したプロフィールの中で、廉太郎くんが面白いことをいってました。

「グローバル化は義務ではなく権利だと思う」って。それをもう少し考えてみませんか。

廉太郎 まず、ひとりひとりにグローバル化するかしらないかという、選択肢があって、それを選ぶ権利があると思います。それは国としても言えることです。でも今、国として「グローバル化しない」という選択をする、遅れてしまう・・・というか、ほとんどの国がグローバル化する方向に動いていると思います。個人という単位でみたときも、多くの人がグローバル化に賛成する、という方向に動いていると思います。

慶悟 今、それを聞くまで、グローバル化って、絶対しなきゃいけないものかと思ってました。でも、彼の考えをきいて、確かに、選べるんだなあ、と・・・。

土屋 みんなグローバルって言





菅沼美穂 すがぬまみほ

1994年卒。専門はバイリンガル教育。アメリカの大学院を卒業後、現在は日系二世の夫と、5歳、2歳の子供と、ロサンゼルス在住。フリーで翻訳と日本語教育の仕事をしている。

葉を使うけど、具体的に、グローバル化するって、何をするのとだと思っ。

廉太郎 個人で言うなら、他の国に行って生活したり、仕事の中でほかの国の人と関わったりすること。で、国の単位でいうなら、自分の得意とする分野のものを輸出したり、相手国の得意分野のものを輸入したりすること、じゃないかと思っ。

OB一同 面白い考えだなー。

土屋 海外に住んでいることがもう、グローバルかあ。僕はね、海外に行ったり、貿易をしなくても・・・グローバルって、言葉にすると特別なものに思っけど、もつと身近なものじゃないかと思っ。

いかと思っんだ。さっきの例じゃないけど、帰国子女とか、海外から来ている人と関わること、相手に対して自分は・・・と考えること。それもグローバルじゃないかと思っんだ。

土橋 慶悟くんはグローバルのことを、「相手を許容すること」だと思っって、プロフィールに書いてたよね。何のために相手を許容するんだらう。

慶悟 もし、受け入れなかったら・・・例えば左手だけでご飯を食べる国にいつて、それがもしいやだつていつて受け入れなかったら・・・。

玖実 受け入れなかったら、その国との関係はそこで終わり、

つてことですよ。

慶悟 許容することが難しい場面も、もちろんあると思っんです。でも、異なる部分がある中で、我々はコミュニケーションしてあるのだから、拒んでしまえば・・・井の中の蛙？というか。拒むことが悪いかどうかは別にして・・・もったいない、かな。

廉太郎 海外と交流を持ったときにしか得ることのできない、新しい知識を手に入れることができると思っんです。もしそこで相手との関係を切つてしまつと、そのチャンスをなくしてしまつわけだし。

菅沼 新しい知識と、あと、自分が知らなかった、新しい自分を知ることができると思っ。わ

かつているつもりでも、相手と話をして、異なる意見を受け入れることで、ああ、自分はこのふうにかえていたのか、つて改めて認識することができんじゃないかと。

土橋 じゃあ、交流することによってにいた新しい知識を何のために使おうか。

廉太郎 人という単位で考えたときは、自分自身を。国という単位で考えたときには、その国を、発展させることができる。

土屋 うん。まず理解する、受け入れることつて、大切ですよ。私が勤めていた会社は、インドネシアに工場があつて、イスラム教の人が大勢いた。彼らは一日に何度かお祈りをしま



高橋慶悟 たかはしけいご

1-7英語科。10年後の夢は外務省。大使館に勤務して、異文化交流に携わりたい。

注①マハラ・ユスフザイ 人権運動家。女性教育の必要性や、平和を訴える活動により、2014年、17歳でノーベル平和賞を受賞。

注②宮崎駿(みやざきはやお) スタジオジブリ映画監督。アニメーター、漫画家。映画「千と千尋の神隠し」はベルリン国際映画祭で、アニメーションとしては史上初の金熊賞を受賞した。

注③若田光一(わかたこういち) 宇宙飛行士。2013年、ソユーズに搭乗し、長期滞在では日本人初のISS司令官を務めた。宇宙滞在期間は、日本人最長。

よね。で、そういう人のために、会社の中に礼拝所が作られてたんです。礼拝の間、当然工場はストップしちゃうんですけれど、まあ、そうやって、相手の文化や宗教を受け入れて、理解していくというのが、企業としてグローバルであるための、最初のステップですよ。

土橋 その、「受け入れる」ということについて、もう少し突っ込んだ話をしたいんですけど、例えば、北朝鮮は日本に向けてミサイル撃つたりしてますよね。明らかに許容できないことを、相手にされたら、どうしますか？

あすか まずは、なぜ、北朝鮮がそんなことをしたのか、私たちが知らないといけないし、北朝鮮は、自分が行ったことによって、相手国がどう考えるのかを知らなくてはいけないと思う。



服部 廉太郎 はっとりれんたろう

1-7英語科。10年後の夢は、テレビ局のアナウンサー。情報を発信する仕事をしたい。

廉太郎 まず北朝鮮という国の環境、というか状態を知ることによって、彼らがどういった考えでいるかを知ることができそうです。それを知っただけではミサイルを止めることはできないけれど、僕たちの国の側からも、さらに北朝鮮の側からお互いに歩み寄ること、見えてくるものがあると思います。

OB一同 すばらしいね！

グローバルリーダーって、どんな人？

土橋 ところでみんなは、グローバルリーダーって、どんな人のことだと思う？

廉太郎 自分の立場だけでなく、相手の立場から・・・すべての人の立場から、物事をみられる人のことだと思います。

慶悟 相手に命令するだけじゃなくて、異なる人たちといっしょにそのプランを実行する、実行力のある人、だと思います。

玖実 英語ができることと、コミュニケーション能力があることは、絶対条件だと思います。

さらに、何事にも積極的に挑戦できる人・・・ボスじゃなくてリーダーって感じ。

あすか 相手のことを考えて、これをしたらどうなるか、とか、相手がどう思うかとか、そういうことを全部、広く考えられる人、だと思います。

玖実 最近話題になった人では、マハラさん(注①)とか。同じ立場の人のことを考えて、自分から積極的に行動を起こせるところがグローバルリーダー



増坪 玖実 ますつぼくみ

1-6普通科特進クラス。10年後の夢は、保育士など、子供にかかわる仕事をする。



だと思いました。

菅沼 真田広之とか。

土橋 渡辺謙とかね。彼らはちやんと自分の考えをもって日本という国を発信してるんだよね。それを見て、日本という国はいいなあとか、逆にいやだなあ、と感じる人もいると思うけど、それだけでもう、日本という国をリードしていることになるんじゃないかな。

あすか ジブリの宮崎駿さん(注②)。日本のアニメーションという、日本にしかないものを伝えているから。日本の風景をいっぱい映して、世界でいろんな賞をもらっている・・・ということとは、世界中で日本を映して、知ってもらおう、ということになっていると思います。

土橋 そういえば、文部科学省のサイトを見たことある人いますか？そこね、グローバルリーダーの定義が載ってます。それによると「国際社会が抱える問題を、意識をもって解決しようとし、発信できる人。集団的意思決定に積極的に関与できる人」それに近いことを、みんな言ってるよね。

すか？そこね、グローバルリーダーの定義が載ってます。それによると「国際社会が抱える問題を、意識をもって解決しようとし、発信できる人。集団的意思決定に積極的に関与できる人」それに近いことを、みんな言ってるよね。

菅沼 みんな、無意識のうちに、それをわかっていて。素晴らしいですね。

土屋 私は、自分が理想とするグローバルリーダーがいるんですよ。若田光一さん(注③)。

一同 ああ！

土屋 あの人はまさに、日本がめざすべきグローバルリーダーの一人だと思うんですよ。宇宙船という閉ざされた逃げ場のない空間に、それこそいろんな国の人がいる。そこでリーダーを務めなきゃならない。相手の意思を理解し、自分の意思も伝えながら、ちゃんと責任を果たしてやっていける。まさにグローバルリーダーの、ひとつのサンプルですよ。

国際問題について考える

土橋 グローバルリーダーの定義の中に「国際社会が抱える問題」ってあったんだけど、どんな問題だと思う？

あすか 国によって貧富の差があること。

玖実 言語の壁によって、関わりたい人との交流ができないこと。

慶悟 紛争とか。

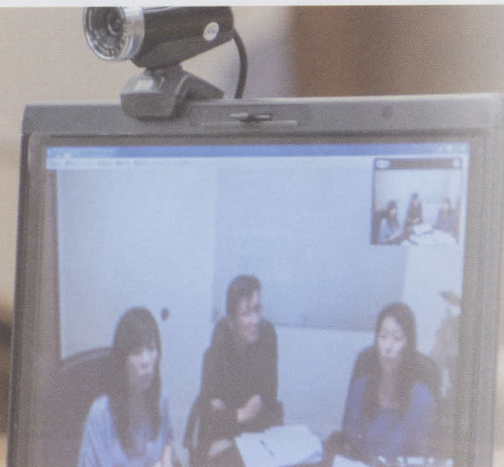
廉太郎 国同士の貧富の差だけじゃなくて、グローバル化に乗り遅れた国には、国の中にも貧富の差があると思います。

あすか それにちよっと近いんですよ、教育を受けられない子供がいます。

廉太郎 自分の国について宣伝する力が、まだまだ弱い国があると思います。

土橋 いくつかでたけど、これらを解決するために、考えてることって、何かありますか？さつき服部君がいった「自国の宣伝」って、面白いね。なぜそんなこと思いついたの？

廉太郎 先進国は、いろんなツールを使って



自分の国のことを宣伝している
と思うんですけど、アフリカの
方の国とかは、自分の国のこと
を主張しきれない面がある
と思うんです。

土橋 じゃあグローバルリーダ
ーのタマゴとして、それをどう
解決しようか。

何か考えがある？

慶悟・・・番組をつくる。宣
伝する方法がないのなら、僕た
ち自身がツールになって、番組
や写真集を作って、その国の姿
を発信すればいいと思います。

あすか 私、手伝ってあげる、
という考え方は同じなんですけ
ど、例えば日本のお茶を紹介す
るホームページがあつたとき
に、アフリカのチョコレートも
いっしょに載せて、いかがです
か？ みたいな。(OB一同から拍手)

土屋 まあ、日本もきちつと伝
えられているかっていうと、ま
だまだね・・・日本でニュー
スみると、アメリカの話題を
たくさんやってるけど、こっち
でニュースみてても、日本の話
題、あまり出ないしね。わかっ
てもらおう、という気持ちがあ
る。だ足りないっていう気がするな
あ。

菅沼 そうですね。
土橋 じゃあ、日本は自国の宣
伝が下手だってことになるのか
な？



廉太郎 今、SGHの活動の中で、山梨県の宣伝をしようとしているんですけど、うまくいかない理由には、宣伝材料が少ない、ということもありました。日本という国も、あまり海外に宣伝する目玉というものがないから、ということもあるんじゃないでしょうか。

慶侶 僕も、日本は宣伝が下手だと思っています。もし、宣伝・・・というか、主張をしつかりできていれば、領土問題とかTPPとかも、スムーズじゃないのかな、と。まあ、主張だけしていればいい、というわけではないと思いますけど。

玖実 私は、上手いと思っていたので、みんなの話をきいて、ちょっとびっくりしました。SGHでいろいろ調べる中で、県ごとのサイトとか、きちんとあったりしたので、上手だと思ってたんです。

あすか 宣伝は上手かもしれないけど、主張、というでは下手かなあ、って。テレビニュースを見ていても、なぜもつとはつきり言わないんだらうって思っていました。いつもあいまいに、相手国の顔色とか様子をうかが

っている感じがします。

菅沼 私、日本は宣伝、下手だと思っていますね。ここで暮らすというんな国の人とディスカッションする機会が多くて、じゃあその中でどれくらい国の人が日本のことを知っているか、っていうと、まだ知らない人が多いので。それをどうやって解決するかっていうと、宣伝費の問題なのか・・・うーん。

土橋 教育じゃない？ ここにいるみんながやればいいんですよ。

菅沼 教育って、大事だと思いますね。勇気をもって自己主張するのは難しいけど、ぜひ頑張ってもらいたいです。

土橋 私はこちらで韓国の人と話をしていると、「韓国は一人一人が外交官だな」って感じるのとが多くあります。たとえば竹島問題、従軍慰安婦問題。彼らは一個人としても、きちんと主張をしてくるんですよ。日本人はよくわからないまま、うやむやにしているけど。

廉太郎 海外から、そう見られるってことは、これからの日本にとって問題だと思うので、僕たちがもっと知識を深めて、



悩んで、解決していかなくては
と思います。

土屋 頼もしいね。

慶悟 日本人が主張が下手だと
いわれるのは、たぶん、問題を
身近に感じていないからじゃな
いかと思うんですけど・・・韓
国は、一人一人がそれを考える
立場に置かれているけど、日本
はそうじゃないから。うーん・・・
解決策っていうと思い浮かばな
いんですけど、一人一人の心構
えの問題じゃないかと思うん
です。

あすか 例えばニュースで領土
問題をみて、こうしたらいいの
に、って、考えることはしてい
ると思うんです。それを口にだ
して、それに対して周りの人も
意見を言う、ということが大切
だと思います。



未来へ、アンテナを高くしよう

土橋 最後に、OBからみなさ
んに、エールをおくりたいと思
います。

菅沼 先ほどから自分の意見を
主張する、ということが言われ
てましたが、私個人の意見とし
ては、主張しつつも日本人の美
徳である「気配る」部分をもっ
てくれることを希望します。ア
メリカの学校でも、以前は前に
出て、私が私が・・・って感じ
だったんですけど、今は一步下
がって相手の話を聞いて、そ
れから自分の意見を言う、って
いう指導がされてきてます。自
分を見失わず、自己主張も大切
ですが、美徳をもって生きてい
っていただけるとうれしいう
です。

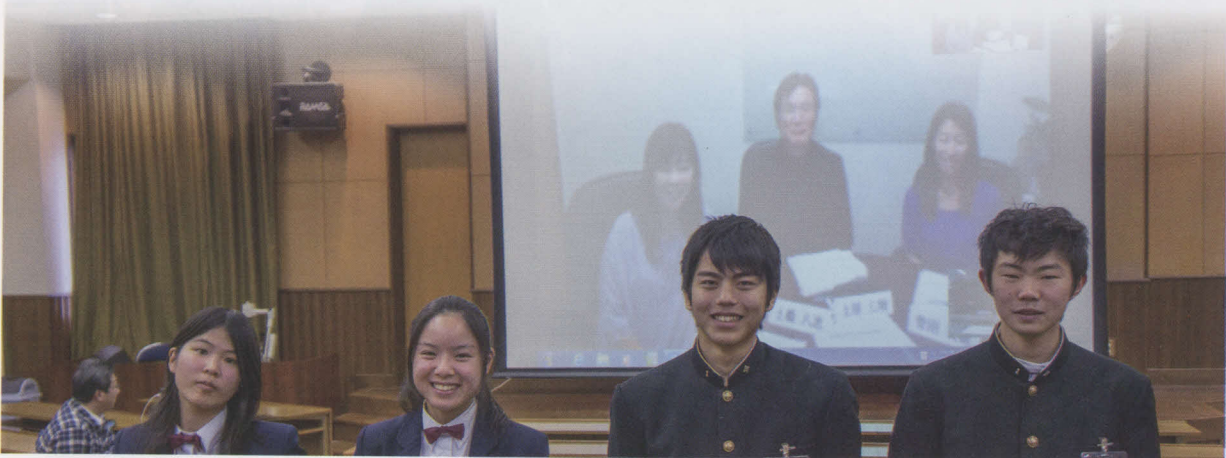
土屋 先ほど皆さん10年後の夢
を語ってくれましたけど、それ
ぞれ夢をもっていて、本当に感
心しました。私は海外へ出たい
なあ、という夢を漠然と持って
いて、2度の駐在経験を経て今、
こっちで起業して、夢を実現さ
せました。日本には海外志向の
若者が少なくなってきたと

聞いて、ちょっと残念に思っ
ています。ぜひ海外に行って「外
から見る日本」という体験をし
てください。日本にいてもグロ
ーバルは可能だけど、ぜひそう
いう視点を持ちつつ活躍してほ
しい。

土橋 あなた方が今SGHで教
育を受けているということは、
本当に有意義なことだと思います。
ぜひグローバルリーダーにな
ってください。一高からそう
いう先輩がたくさんでるとうれ
しいです。期待しています。今
日の対談はどうでしたか？

慶悟 自分はまだまだだな、と。
自分が夢を実現させるために
は、まだまだ知らない世界があ
ると思いました。今日からは、
もう少し自分のアンテナを高く
していきたい、と思いました。

廉太郎 実際にアメリカにいる
先輩方と話をすることで、ここ
にいるだけでは得られない考え
を得ることが出来ました。同時
に自分の中の課題も多く見つ
かりました。その課題を自分な
りにじっくり考えて、答えが見つ





対談 文責：中田よう子(1983年卒) フリーライター

かかったときに、また先輩方とお話したいです。

あすか 今までSGHの活動の中で、こんなに「グローバル」の基本について考えたことはなかったのですが、本当にいい機会をいただきました。

玖実 海外から見た日本のことを知ることができたし、これからの日本を変えていくためには、私たち自身がちゃんと変わっていかなくてはと、思いました。

一同 今日はありがとうございます。

From organizers.

「SGHに甲府一高が選ばれました」という話を聞いて、「?」と思いました。「一体、どんなことを学校は行おうとしているのだろう?」という素朴な疑問です。それがこの企画のきっかけです。

同時に「生徒にとってのグローバルって何だろう?」とも思いました。

それは、SGHの対象となる英語科と普通科特進クラスの1年生は入学後に認定されており、受験時点では意識していなかったのではないかと考えたからです。

そう考えると、「意識していなかった生徒にとってのグローバル」を問う事が入り口として相応しいのではないかと考えていました。

実際の内容は対談記事をご覧くださいと思います。

ここでは、対談の現場にいて、ポイントとなったことを幾つか挙げさせていただきます。

まず、グローバルの基本は「他文化の受容(adoption for a foreign culture)」として生徒も卒業生も考えていることです。

グローバルリーダーの基本も紛争の解決にも、それがベースになると感じています。

次に、「英語はツール」と感じている事です。30年以上前、自分が生徒であった時にはこの考え方は一般的ではなかったと思います。むしろ英語学習自体が受験のための目的化していました。

それが他者視点を考えるためのツールという見方に変化しているのは面白いなと感じました。3番目は「宣伝」と「主張」の違い。もし再度のディスカッションの機会が与えられるのなら、「身近な事を深く知る」理由として、これをテーマとしてもう少し掘り下げてみると良いのではないかと感じました。

最後に、この対談の中で一つの考えが頭に浮かびました。

「グローバルとは認識する空間の広がり」ではないかと。

他者を受容する、自分を主張する(他者に受容してもらう)、世界で起きている事を知る、身近で起きている事を知ってもらう。

これらのことは、今この場所にいて、その上で、相手の場所で感じることはないかと。

この考えのきっかけを得られた事は、とても興味深い経験でした。

結びとして、この場を作ってくださった赤池校長先生、奥平教頭先生、SGH推進係主任である野澤先生を始めとした学校関係者の方々に感謝を申し上げたいと思います。

また、LAから参加してくださった土屋三郎さん、菅沼美穂さん、土橋八重さん、生徒側として参加してくださった水上あすかさん、増坪玖実さん、服部廉太郎さん、高橋慶悟さんにも感謝致します。ありがとうございました。

リード及び結び 文責：井上文人(1983年卒) 税理士

平成26年8月、SGHの一環で、世界で活躍する先輩を現役一高生が訪問した「はじめまして、先輩!」。今回、訪問を受けた中の3名の方に一高生の印象や同窓生・在校生に向けたメッセージ取材・インタビューした。

自分をしっかりと主張できる人に!

株式会社三菱ケミカルホールディングス
代表取締役会長

小林喜光

〈1965年卒〉

1946年（昭和21年）11月生
山梨県南アルプス市出身

株式会社三菱ケミカルホールディングス 代表取締役会長
三菱化学株式会社 取締役会長
株式会社地球快適化インスティテュート 代表取締役会長
産業競争力会議 民間議員
公益社団法人経済同友会 代表幹事
一般社団法人日本化学工業協会 会長

企業訪問を受け、現在の一高生たちの印象をお聞かせ下さい。

現役の高校生の皆さんとお会いたした印象は「皆元気がいい！若い！自分の高校時代もこんなに若かったのか。」というものです。昭和40年（1965年）卒業ですから、私が高校生だったのは半世紀も前のことで、若かったのも当たり前ですが。

高校時代の思い出は？

会社に来ていただいた高校生の皆さんにも話しましたが、やはり「強行遠足」が一番の思い出です。精根の限り歩き続ける。人生そのものです。

高校生の頃は、勉強もしましたが、とにかく本を読んだ覚えがあります。坂口安吾、太宰治などの作家を好んで読んでいました。小説に没頭しながらも、「人間は何のために生きるのか」を四六時中考えていた青年でした。

社会に出られてからの苦労話やエピソード等ありますか？

私は、大学院の修士課程、博士課程に進み、就職前に結婚もしましたので、いつから社会に

出たか、という節目が明確ではないのですが、博士課程の1年にイスラエルのヘブライ大学に留学し、放射線化学について研究しました。

イスラエルに留学したのは、当時ベストセラーとなった『日本人とユダヤ人』を読んだのがきっかけです。高校時代からユダヤ教やキリスト教に興味を強く抱き、ディアスポラの歴史書をよく読んでいましたが、近代に国家を築き、ヘブライ語を復活させたユダヤ人のバイタリティーを自分の目で確かめたくなり、たまたま大学の掲示板に案内のあったイスラエルへの国費留学に応募したのです。

今はエジプト領ですが、シナイ砂漠を横断するツアーに出かけたときのことです。目にするもののすべてが砂漠で、ほかにほまったく何もない。蜃気楼の中に、一点、黒いシヨールをまとったアラブの女性が黒ヤギを連れて歩いていくのを見たとき、何もないところに生きるものが一個でも存在する美しさ、生きるということは素晴らしいことなんだと、全身を衝撃が貫いた

のです。このときに、せっかくこの世に生を受けたのだから、とにかく生きて何かを徹底してやり抜こうという心境になりました。これが今の私の原点といってもよいと思います。

その後、イタリアのピサ大学で1年間、理論無機化学を学んだ後、帰国しました。

帰国当時、私は既に結婚しており、長男が生まれたこともあり、28歳で今の会社（当時の三菱化成工業）に入社しました。化学を専攻していた関係で仲のいい友人が三菱化成工業の研究所におり、彼に人事部の電話番号を聞いて、部長の面接を受けに行ったのです。

会社に入ってからのは話は省略しますが、本当にいろいろな苦労がありました。上司にもしっかりしごかれました。でもそのおかげで今の私があるのです。人生は苦労の連続です。「若いときの苦労は買ってでもしろ」といわれるとおり、苦労から逃げない人間であっていただきたいと思います。

グローバルな世界へ羽ばたくためにはなにが必要でしょうか？

グローバルな世界において、まず必要となるのは英語です。若いうちに英語をしっかりと勉強していただきたいと思います。

もう一つはICTだと思います。世の中の事象すべてがデータ化され、クラウド上で扱われる時代です。ICTの専門家になるまでの必要はありませんが、IoT（Internet of Things、モノのインターネット）、「人工知能」「ビッグデータ」についての知識は、これからの時代では必須だと思っています。

最後に後輩、一高同窓生へメッセージをお願いします。

甲府一高の校是に「苟日新日新又日新」、「Boys be ambitious」がありますね。

若い皆さんには、しっかりと将来を見つめ、大きな「夢」を持って、明るく、元気よく、そして、自分をしっかりと主張できる人になって欲しいと思います。

安定を求めず、
ハングリーさを持って！

株式会社 熊谷組
代表取締役社長

樋口 靖

〈1970年卒〉

1952年（昭和27年）2月生
山梨県甲府市出身

昭和51年 東北大学大学院工学研究科 修了
昭和51年 熊谷組 入社
平成 9年 建築本部住宅事業部住宅建築部長
平成12年 建築本部住宅本部長代行
平成14年 東北支店建築部長
平成15年 ケーアンドイー株式会社 代表取締役社長
平成20年 執行役員
平成20年 東北支店長
平成23年 常務執行役員
平成23年 関西支店長
平成24年 専務執行役員
平成25年 執行役員副社長
平成25年 本社 建築事業本部長
平成25年 本社 建築事業本部設計本部長
平成25年 代表取締役社長（現任）

未曾有の被害をもたらした東日本大震災。

強固なはずの建造物が津波によって瓦礫と化した惨状を、その人は呆然と見つめていた。ゼネコン大手・熊谷組の樋口靖社長（当時東北支店長）である。

わずか2日前に関西への異動の内示を受けていたことを考えると、ある種の因縁を感じざるを得なかった。ちなみに福島原発事故の指令塔となった重要免震棟は、熊谷組が手がけた建築物である。

樋口社長のゼネコン人生は実に起伏に富んでいる。

一高から東北大工学部に進学し、花形だった建築学科を選んだ。当然4年の卒業時は引く手あまただったが、大学院に進んだ2年の間にオイルショックが起きて一転就職難に。かろうじて熊谷組に入社した。ヨチヨチ歩きの現場監督も強面の労働者たちに揉まれながら一人前となり、建設業の遣り甲斐に目覚めた。折りしも空前のバブル景気で、業界全体が我が世の春を謳歌していた。だがバブルが弾けると経営危機に陥り辛酸をなめ

た。

数々の挫折も味わったからこそ、樋口社長にはある哲学がある。人生や仕事において、道を選択しなければならぬ時がある。その際に、あえて困難な道を選ぶ。その方が自分が鍛えられ、経験値も上がるといふのだ。聖書でいう「狭き門から入れ」である。

過日、現役一高生の会社訪問を受けた際に驚いたことがある。それは女子生徒の存在だ。メンバーの半数を女子が占めて華やかな印象。しかも男子をリードしているではないか。自らの高校時代、女子はクラスの1割程度しかいなかったことを思うと隔世の感を禁じえない。

一方で、さもありなんとも思う。熊谷組の入社試験でも総じて女性の方が優秀。台湾や香港といった海外の現地法人のスタッフも7割が女性のところもある。ゼネコンも女性の時代を迎えつつあるのだ。

樋口社長はある日こんな話を耳にした。「今の一高生は地元志向が強い。」もちろん、優秀な人材に山梨繁栄の一翼を担っても

らいたい。だがあえて次代を担う一高生に贈るメッセージ。

それは「外に出るチャンスがあれば出て欲しい。そして安定を求めず、ハングリーさを持つて！」。

その言葉には、まるで巨大なパワーシヨベルが厚い岩盤を打ち砕くほどの力強さがある。



（インタビュー：三井貴美也（昭和58年卒））

自分の色を鮮やかにしろ！

株式会社 三井住友銀行
取締役副会長

清水喜彦 〈1974年卒〉

1955年（昭和30年）12月生
山梨県甲府市出身
早稲田大学商学部卒業

昭和53年 株式会社住友銀行入行
平成 8 年 新横浜支店長
平成10年 静岡支店長
平成11年 静岡法人部長兼静岡支店長（組織変更）
平成13年 株式会社三井住友銀行・法人戦略営業第一部長
平成14年 丸ノ内法人営業部長
平成16年 執行役員 丸ノ内法人営業部長
平成17年 執行役員 法人統括部長 兼 SMBCファイナンス・グループ・アライアンス株式会社
平成18年 執行役員 法人企業統括部長 兼 SMBCファイナンス・グループ・アライアンス株式会社
平成20年 常務執行役員 法人企業統括部長 兼 SMBCファイナンス・グループ・アライアンス株式会社
平成21年 常務執行役員 監査部・資産監査部担当役員
平成22年 取締役兼専務執行役員、法人部門統括責任役員、コーポレート・アドヴァイザリ-本部担当、グローバル・アドヴァイザリ-部担当
平成23年 取締役兼専務執行役員、法人部門統括責任役員、グローバル・アドヴァイザリ-部担当
平成24年 取締役兼副頭取執行役員、法人部門統括責任役員、トランスナショナル・ビジネス本部担当
平成25年 取締役兼副頭取執行役員、法人部門統括責任役員
平成26年 取締役副会長、特別補佐（国内業務関連）及び特命担当

世が戦国時代なら、間違いなく武將となって乱世の舵取りをしていたのではないだろうか。それが清水喜彦氏に会った印象である。

三井住友銀行と言えば、日本を代表するメガバンクのひとつ。昨今では東南アジアを中心とした海外進出も目覚ましい。その副会長を務める清水氏は国内外の業務全般を統括し、部下が約2万人というのだから、あながち冒頭の印象も大袈裟な表現ではないだろう。

現場の叩き上げから銀行のナンバー2にまで登り詰めることが出来た理由は何なのか？

清水副会長は「時代に恵まれたから」という。時まさに、いわゆる護送船団方式が終焉し、バブル経済崩壊や金融スキャンダルが嵐が吹き荒れ、銀行業界は「有事」の連続。乱世のリダーが求められる時に頭角を現し、辣腕を振るったのが、清水副会長だったのだ。

そんな清水副会長の元を現役の一高生が訪問した。その懐かしい制服は、瞬時に遠い記憶を

呼び覚ましてくれた。部活に明け暮れ、仲間とつるんだあの日。勉強に励んだ記憶はない：とは半ば謙遜だろうか。

さて、清水副会長が抱いた印象は、「良い児が多い」「大人しい」だった。あえて母校愛から厳しい言い方をすれば「色が無い」。ここで言う「色」とは「個性」と置き換えられるだろうが、清水副会長の真意はさらに「社会を生き抜く力」というワードを包含しているように思われる。

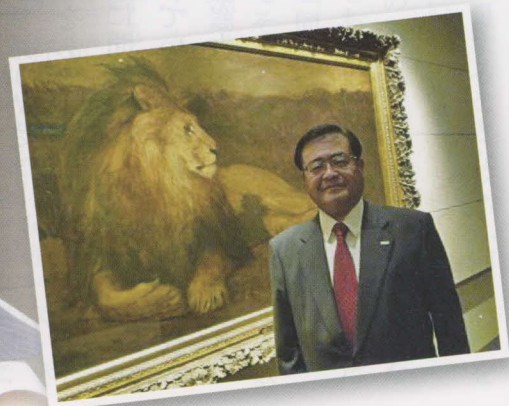
組織を束ねる立場からすれば、色のない人間は使い道がなく、色の鮮やかな方が断然有利。

特に現代のような有事の時代には、多彩なカラーの人材を集めた組織の方が強いのだ。「自分の色を鮮やかにしろ！」とは今の若者に対する強烈なメッセージである。

最後にグローバル化が進む現代社会を生き抜く術について。海外に出ること、英語が堪能なことがグローバルだと勘違いしている若者が多い。「エリア」という「座標軸」で言うならそれは正解。だが、社会では仕事の質に応じて様々な軸があることを知らなくてはならない。求め

られるは「モノの見方」である。各分野において、既成概念にとらわれない広い視野を持つことが肝要である。

清水副会長は一高時代、弓道部に所属。朝、昼、夕と打ち込んだという。その的を射る目は今も健在、混迷する時代の先を見据えていた。



（インタビューアー 三井貴美也（昭和58年卒））



質実剛健

縣立甲府第一高等学校

一高には、現在、四十三の部があり、生徒達は、日々の練習に励んでいる。

自分の自由な時間は、少なからず制約されるが、部活動を通じて得られるものは、計り知れないのではないだろうか。

部活動と勉強との両立は、決して楽ではない中で、高校生活の三年間という限られた時間を、精一杯に謳歌しようと、部活動に取り組み、目標に向かって、直向きに努力する生徒達の部活動への想いは、力強く、逞しく、そして清々しい。

ここでは、特に活躍がめざましい六つの部活動にスポットをあて、部活動の内容とその想いを生徒達に聞いてみた。

後輩達が頑張っている姿に自身の高校時代がよみがえる同窓生も多いのではないだろうか。

こんにちは、應援団吹奏楽部です。私たちは現在1年生38人、2年生27人の計65人で日々活動しています。

昨年度より部員の数が急増したことにより、運営や演奏の面において、何度も壁にぶつかりました。しかしながら、代々受け継いできた伝統のスローガンである「向上心」のもと、努力をし、その壁を乗り越えてきた一年でした。また、顧問である秋山尚克先生の指導で、「同じ〇〇」ということを部員全員で意識し、曲のリズムや音色の統一を目指してきました。

今年度は5月の定期演奏会、7月の全国総文祭、8月の県吹奏楽コンクール、9月の西関東吹奏楽コンクール、10月の芸術文化祭、12月のアンサンブルコンテストなど様々な場所で演奏させていただきました。その活動の中でも、私たちが昨年の芸術文化祭で県1位を獲得して出場権を得た、全国総文祭いばらき大会は思い出深いものでした。ここでは全国から集まった強豪たちが、素晴らしい演奏を繰り広げていました。それは私たちにとってとても刺激的な体験で、今後の活動の糧となるものでした。また、吹奏楽コンクール山梨県大会では、金賞を受賞することができ、9月に行われた西関東吹奏楽コンクールへの出場を果たし、芸術文化祭では優秀賞を受賞するなど今年も多くの成果を上げることができました。

このような素晴らしい結果を残せたのも、同窓会の皆様はじめ多くの方々のご厚意とお力添えがあったからこそだと感じています。しかし、私たちはまだ満足のいく演奏をしたことがありません。自分たちの目指すものは何なのか、しっかりと意識しながら一日一日を大切にし、これからも努力を続けていこうと思います。

私たちの今後の目標は来年度5月2日にコラニー文化ホール大ホールで行われる第56回定期演奏会を成功させることです。もちろん夏のコンクールでも今年を上回るよう



應援団吹奏楽部



な演奏に仕上げていきたいと思っています。そのためにも、今の実力に満足することなく、「向上心」を持つてさらに音を磨いていきたいと思っています。

人数が多いとその分合わせる作業が大変になり、難しいところもあります。よって先に書いたように、「同じ音量」、「同じ音程」、「同じ発音」など、様々なことが全員でそろうことを目指し、大人数で演奏する利点を最大限に活かせるよう励んでいこうと考えています。音楽をするうえで、様々なことを同時に意識するということは欠かせません。それを全員でやっていこうという難しさと楽しさに前向きに、精一杯、部員一同頑張っていきます。これからもそんな私たち應援団吹奏楽部にご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

ア・カペラ部は、明るく歌の大好きなメンバーが集まった楽しい部活です。活動は、基本的に平日と土曜日に行っていますが、休日はコンサートが入ることが多いです。

私がこの部活に入ろうと思ったのは中学の時です。私はずっと高校で歌を歌う部活動に入ろうと思っていました。その中で、甲府一高ア・カペラ部が新聞に取り上げられていたり、出来たばかりの部活なのにコンクールで上位入賞したのを聞き、高校でこのようなハイレベルな部活に入り、大好きな歌を歌いたいという思いで一高を選び入部しました。

今年度は、夏のコンクールや芸術文化祭で上位入賞することができました。また、茨城総文祭では自分達の持っている力を出しきって楽しく演奏することができました。来年の滋賀県で行われる総文祭にも出場します。またコンクールだけでなく、地域の商店街や中学の合唱祭での招待演奏、公共施設や老人ホームなど様々な場所でもコンサートをしています。このようにコンサートの依頼が多く来るようになったのは、先輩方が土台をつくり、成績を残してくれたおかげだと思います。本当に感謝しています。

普段の練習は、発表に向けてとても細かなことをしています。ア・カペラは、一人でも音がずれると和音や音楽自体が崩れてしまいます。パート練習でしっかりとパートごとの音を合わせ、全体で合わせるときは、ひとつひとつ和音を丁寧に確認しながら音楽をつくっていきます。そこがア・カペラの大変なところであり楽しいところなんです。

これから、合宿をするなどして次の発表に向けて個々のレベルを上げていきたいです。また、二月のコンクールでは上位に入り、関東大会に出場できるように頑張りたいです。そして3月、4月は、たくさんコンサートがあるので、そこに向けても質の高い演奏ができるように練習していき

ア・カペラ部



たいです。

最後に、まだまだア・カペラ部は成長していきま
す。そしてもっと多くの人にこの部活のことを知っ
てもらいたいです。発表の機会がたくさんあるの
で、是非時間のある時に足を運んでくださると嬉
しいです。これからもア・カペラ部の応援をよろし
くお願いします。

私たち美術部は平日の朝と放課後を中心に、大会前は休日も返上して活動しています。朝練では、美術系大学受験に向けたデッサンを通じ個々のレベルアップに励み、放課後練では各種大会に向けた作品制作に没頭しています。また、夏休みには県外などで3日間の合宿を行い、技術の向上と共に部員同士の絆を深めています。

現在、美術部の部長として毎日活動しておりますが、私が美術部に入学しようと意識し始めたのは中学3年生の春です。当時、美術系大学進学を夢みていた私は、一高の美術部の噂を聞き、一高に行こうと決意しました。それから、学園祭などを通して実際に美術部の作品や活動風景を見ることが、私の一高美術部への憧れはどんどん大きくなりました。高校受験も、一高美術部に入り「一美」と背中にはいったツナギを着ることを目標に頑張っていたほどです。

そんな思いで入った美術部で、充実感を感じるのやはり活躍で



美術部

きた時です。その中でも記憶に残っている大会が2つあります。

1つ目は、私が1年生の時に開催された、幕絵甲子園2013です。一年生のみのチームで出場した「チーム一美」ですが、優勝をおさめることが出来ました。幕絵は初めての挑戦で、とにかく「一美らしさ」を出せるように全力を尽くしました。また、個人活動が多い中でも仲間との存在を大切に、チームワークを高めていたためその力も発揮できました。

2つ目は、秋に行われた県の芸術文化祭です。私たち2年生にとっては最後の芸文祭であり、意気込みも他の大会以上のものでした。連日、多くの時間を作品のために割き、最後は芸文祭の朝まで作品と向き合い続け自分の全てを注ぎ込みました。その甲斐もあり、一美は6年連続全国大会出場を果たすことができました。私自身も優秀賞をいただき、全国総文祭に出場させていただけることをとても嬉しく思っています。

2年生はあと半年で部活動は引退です。残り少ない大会も納得できる結果が残せるよう、部員全員で協力し、個性的な「一美色」を出していきたいです。



甲府一高男子テニス部は、県の強化指定校として活動しています。過去、団体でインターハイ（全国高校総体）には県最多の14回出場し、平成15年・平成25年には県最高成績の団体ベスト16（3回戦進出）に入りました。また、インターハイ個人戦男子シングルスでベスト16入りし、全国高校ランキングに載った選手もいます。また、関東選抜大会を突破し、全国選抜大会に5回出場しています。

平成26年度の部員は、3年6名、2年4名、1年5名です。学校には、コートが1面（男女共用）しかないため、平日は緑が丘、休日は国母公園・小瀬スポーツ公園などの公営コートで練習しています。練習環境はよくないですが、その分、先輩たちの活躍で県外にも名が知られ、多くの強豪校・有名校が練習試合をしてくれますので、たくさんさんの遠征をしています。高校に入ってからテニスを始め、全国大会に出場した先輩もいます。

一高テニス部は、「伝統ある強豪校」を目指し、高い目標と向上心を持ち、部長を中心に自主的に活動をしています。一高生なので、勉強が一番大切です。成績上位で頑張っている先輩、英語科生で全国大会に出場した先輩、全国大会に出て現役で東大や医学部に合格した先輩もいます。楽しい学校生活ではないですが、テニスで全国上位、進路で第一志望校を目指し、文武二道を突っ走っています。

〈部長から〉

テニス部としての活動は私を精神的にも人間的にも大きく成長させてくれた。「全国に行こう!」という共通の目標を持った仲間たちと切磋琢磨した日々は、大切な思い出がある。

男子テニス部

選手宣誓【第36回全国選抜テニス大会】

3年前、全国選抜大会直前、東日本大震災が起こりました。
今なお、多くの方々が試練と困難に向き合っています。
今一度、思い出しましょう、私たちにできることは何か。
今一度、思いを届けましょう、みなが確かに前に進めるように。
ここ博多の森で、最高の仲間、よきライバル、
そして、私たちを支えてくださる方々の思いと共に、
テニスがでる喜びをかみしめ、全身全霊でプレーすることを誓います。

平成26年3月21日

山梨県立甲府第一高等学校 男子テニス部主将 小倉正寛

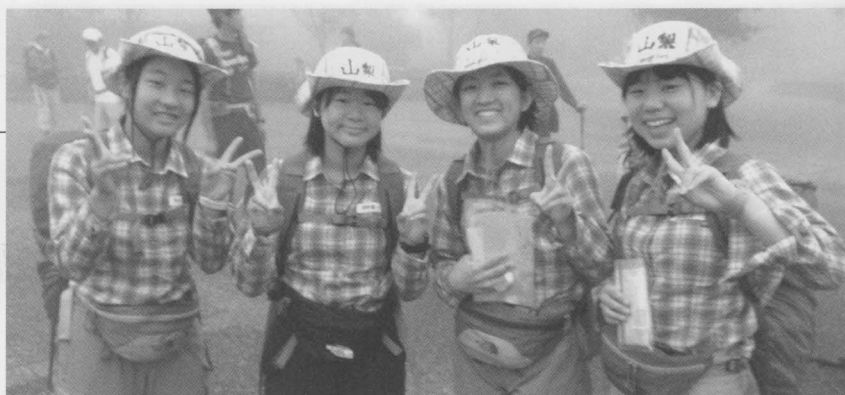


目標としていたインターハイに出場でき、また、先輩方のボランティア活動も評価されて全国選抜大会にも出場できたことは、素晴らしい経験となった。さらに、部長として全国選抜大会という大きな舞台で選手宣誓をやり遂げたことも自分の中で大きな自信となった。これは、自分たちの力だけではなく、先輩方、顧問の先生方の指導、そして家族の支えがあったからこそである。支えてくれる全ての人たちへの感謝の気持ちを忘れず、これからさらに成長していきたいと思う。

私たち山岳部は男子10名、女子8名で活動しています。山岳部はただ山に登るというイメージを持っていると思いますがそうではありません。山岳部にもほかの運動部と同じように大会（総体）があります。登山知識、歩行技術、体力、炊事、幕営技術など百点満点の減点方式で順位を競います。大会のためというわけではありませんが、体力面を強化するために平日は15キロのザックを背負い近くの山へ登ったり、武田神社や舞鶴城へ走りに行ったり、体幹トレーニング等をしています。学科面を強化するために天気図を書いたり、登山教本を使い登山知識を勉強しています。休日は白山や要害山など少し遠い山へトレランにいきます。また、月に一度の月例登山を通して練習の成果を実践に結びつけながらこれまでたくさん山の山に登ってきました。さらに、バーベキュー、サイクリング、スキー合宿など自然や四季を楽しむ行事もあります。このように充実した活動ができるのも顧問の先生をはじめとするたくさんの方のおかげだと思っています。

私が山岳部に入った理由は、中学生の時、一高のホームページで山岳部の活動内容をみたからです。自然を楽しんでいる先輩方がよく分かり、一高を受験するきっかけとなりました。入学とともに部室を訪れ、炊事体験を経験しながら先輩から説明を受けました。私は以前からキャンプへ行ったりとアウトドアが好きだったので、入部を心に決めました。

私たちは今年インターハイに出場することが出来ました。これまで先輩方が2年連続で出場しており、今年私がメンバーになった時には私で大丈夫かなと不安になりました。私が担当したのは救急知識です。先輩の足を引っ張らないように、私のせいで連覇が途切れないようにと必死に毎日天気図を書きました。点の位置がずれていて先生に怒られる夢もみました。そして、その努力が実り本番で満点を取



山岳部



ることが出来ました。インターハイでは自分の弱点を知ることができ課題意識をもちながら練習に取り組んでいます。

今年は、初の男女アベックでインターハイ出場を成し遂げ、さらにインターハイで戦い抜ける力をつけたいと思います。そのために、日々の練習、山行を大切にしていきたいです。

また、一高出身の先輩方には山岳部へのご支援、ご協力いただきありがとうございます。目標を達成するためにより部活動に励んでいくので、これからも応援よろしくお願い致します。

本年度、アーチェリー部は3年生8名、2年生5名、1年生6名の計十九名で、緑が丘洋弓場で活動してきました。練習は、夏季は70メートル、冬季は18メートル先の的に向かって行射しています。アーチェリーは一定性を必要とするスポーツです。毎回同じフォームで射つことを目指し、正しいフォームで矢を射つことを何度も何度も繰り返し練習を重ねることで、矢の当たりがまとまり点数も高くなります。また、正しいフォームで矢を放った時の弦音や、的の中心を射抜いた時の音は何ともいえない気持ちよさを味わうことができます。

私は幼い頃から、家族や親戚の話題の中で「一高」という名前をよく聞いていました。また、同時に「一高のアーチェリー」という言葉も耳にしていました。それから、一高としてアーチェリーに興味を持つようになりました。それに、私は他の人と違ったことをするのがとても好きでした。その点で部活動を設置している学校が少なく、競技人口が少ないアーチェリーは私にぴったりのスポーツだと思いました。そのような理由から、一高入学後は迷うことなく入部を決めました。

私たちは、今年度の夏に千葉県で開催されたインターハイに出場しました。私は大きな会場や大勢の人の中で緊張してしまい、練習通りの射ち方ができずに思うような点数を出せませんでした。この大会で改めてフォームを一定させることの難しさを感じました。そんな中、一高から男子個人戦で2位、女子個人戦で8位の入賞者を出すことができました。

私はこの結果を仲間としてとても嬉しく思うと同時に、自分も負けていけないと思いました。

来年度のインターハイは奈良県で開催されます。私は、そこで今年度のリベンジをしたいと思っています。そのために、冬の時期に自分のフォームの欠点を修正し、理想的な射ち方に近づけて徹底していくことを目指します。



アーチェリー部



もちろんそれは自分ひとりではできません。仲間と教え合うこと、顧問の先生や指導者の方の助言、他校の生徒からの刺激など、部活動であることのメリットを生かしながら、自分たちを支えて下さっている方々への感謝の気持ちを忘れず、日々努力していきます。そして、来年度のインターハイでは一高として個人戦・団体戦ともに上位を狙っていききたいと思います。

恩師寄稿



な射ち方に近づけて徹底していくことを目指します。

「...」

思い出

私と甲府一高のかかわりは小学生まで遡らなければなりません。当時、私も一家は母方の実家で祖父や叔父・叔母と小学校から中学校を卒業する頃まで同居していました。その居住地が甲府の旧白木町（現美咲）で、甲府一高にきわめて近い場所でした。叔父の一人が一高のサッカー部（当時は蹴球部）の選手をしていた関係で日曜日など個人練習をする叔父に連れられて一高のグラウンドへ度々行っていました。中学生になってからも近所に住む従兄弟とよく遊びに行きました。体育館に上がり込み器械体操の道具で遊んでいると「一高に入ってからにしない」と先生にたしなめられたこともありました。

私と甲府一高のかかわりは小学生まで遡らなければなりません。当時、私も一家は母方の実家で祖父や叔父・叔母と小学校から中学校を卒業する頃まで同居していました。その居住地が甲府の旧白木町（現美咲）で、甲府一高にきわめて近い場所でした。叔父の一人が一高のサッカー部（当時は蹴球部）の選手をしていた関係で日曜日など個人練習をする叔父に連れられて一高のグラウンドへ度々行っていました。中学生になってからも近所に住む従兄弟とよく遊びに行きました。体育館に上がり込み器械体操の道具で遊んでいると「一高に入ってからにしない」と先生にたしなめられたこともありました。

き続けています。昭和60年は、強行遠足60周年記念の年でした。須藤獭先生制作の記念像が本館に設置され、記念誌も刊行されました。紆余曲折を経て続くこの伝統行事は同窓生を繋ぐ絆、これからも歴史を刻み続けることを願ってやみません。

部活動では、野球部長を命ぜられました。

野球部の輝かしい歴史は、時としてプレッシャーとなり、部員たちに厳し過ぎたのではないかとの思いは残ります。にも拘わらず県大会を25年ぶりに制するなど楽しい思い出を沢山もらいました。部員たちに感謝です。

今年に入って、この国には大きな動きがありました。経済面ではアベノミクスの是非が問われています。政治面では特別秘密保護法の制定、集団的自衛権の行使容認を閣議決定しました。少子化、高齢化も一段と進み、この国の将来像が見えないのが不安です。すでに社会の中心的存在として、指導的立場で活躍されている当番幹事の皆さんには、子どもや孫のためにも、この国のカタチに想いを馳せ、ご活躍されますよう心からご祈念申し上げます。



三年二組担任

渡辺 明

今徒然に思うこと

三年三組担任

高見澤 稔



私も甲府一高の同窓生です。戦後間もない昭和25年入学、28年卒業です。新制度の入学一期生、男女共学の一

期生でもあります。昭和9年生まれ、傘寿を過ぎました

ので相当古い世代に属することになります。

連合国(米国)の占領下にあり戦後の混乱が続いた、

世情落ち着かない時代で、校舎内外の環境も整わず、窓

ガラスや壁が壊れたままであったり、何処からでも校内

に出入出来る状況でした。暖房用の火鉢は職員室と女子

用だけで、冬の寒さは食料不足で栄養不良の身体にはか

なりこたえました。又、旧甲府連隊の中を通り抜け、校

庭北側のどぶ川を越えて通学していました。

世の中は昭和20年8月15日を境に価値観の大きな転換

があった後で、昨日迄の事を忘れたかのごとくに器用に

転身して新しい民主主義の今日を生きる人達、戸惑い悩

みながらも大きな流れの中で新しい時代を何とか生きよ

うとする人達、無駄な抵抗を試みる人達など様々で

ありました。

そんな中で篠原寛二と言う校長先生の名前を今でも覚

えています。地味な存在でしたが、好みのタイプの(私

の考えに近い)先生だったからだと思います。私達の卒

業の翌年、現職五十二歳の若さで他界されましたので一

層印象に残っているのかも知れません。甲府中学大正八

年卒業の同窓生で、広島大学から着任したカントの哲学

を研究する学者だったと聞いていました。

新制高校発足間もない甲府一高に新しい校風を確立し

ようとしていた時期で、先生が物静かに生徒に語った、

今でも覚えている言葉が、「自己の確立」「人間性の尊重」

「誠実と努力と辛抱」などです。先生の信条「物事の真

実に生きて行きたい、そして自己には厳正でひとには寛

容でありたいと願っております、それと同時に真に人間

的であるには勇気が必要だと思っております。」という

のが気に入っていました。

この通りに生きるのとはとても大変なことです、若気の

至りで青臭くそう思つて以来、そうありたいと「時々」

心掛けて来ました。

思っています。暴力的な先生も生徒もいましたし、厳し

く規制したがる先生も、急進的な思想の生徒もいました

が、校長先生がリベラルな考えの持ち主だったのが影響

していたと思つています。又、大きくは踏み外さない程

度には自己規制の出来る生徒が多くを占めていたことに

もよると思っています。

様々な生徒がいてそれぞれに学業に、文化活動に、体

育活動にと励んでいたように思います。優秀な生徒も多

く各分野で好成績、好結果を得ていました。そんな中、

凡庸な私にも何とかそれなりに居場所があるという多様

なものを包容出来る雰囲気为学校だったのだと思つてい

ます。

丁度創立70周年に当たりましたが、今のうちに余り

「伝統伝統」などとは言いませんでした。強いて当時の

伝統的なものはと言われれば、先生や生徒の日々の営み

の結果出来上がりつつあった多様性を包容し、自由を大

切にする雰囲気、伝統的な校風と感じていたのかも

知れません。

教員として甲府一高と再び縁が出来たのは昭和56年4

月、甲府東高校から転勤して来た時からです。高校卒業

時にはまさか自分が母校の教員を勤めるなど思ったこと

も無かったので、若干の戸惑いと気恥ずかしさを持って

着任したような気がします。

その時担任したのが理系のクラス2年3組でした。

男子36名、女子8名合わせて44名のクラスだったと思

います。3年3組迄2年間、ほぼ同じ顔ぶれの生徒諸君の

担任を勤めさせて貰いました。

私が甲府一高へ来た時、当時の校長のI先生から期待

されたのは大学へ沢山入れてくれという事でした。生徒

には、勉強は当たり前として強いては言わず、遅刻が多

く教室が汚れていたの、遅刻と掃除をきちんとする

よう要求しました。「何で掃除をしなけりゃならんで」

などという男子もいました、将来社会で指導的立場に

立つ諸君は今やっておかなければ掃除を体験する機会を

逸してしまふ、又不運にして恐妻に巡り会った場合には

今の経験が役立つなどと冗談めかして説得したのを覚え

ています。

「先生には口では敵わん」などと言う生徒に「何なら敵

う積りだ」などとやり返したことも思い出します。

信州大学に進んだT君の暑中見舞いに「相変わらず遅刻

と掃除やっていますか」と書いてありました。ちゃんと

聞いてくれた生徒もいたのかと感心しました。

風変わりな「受験指導」でしたが生徒諸君よく頑張つ

て、北は北海道から西は長崎までよく受かってくれまし

た。私の真の意図を推量するだけの「知性と感性」を

持っていたのか、担任が頼りないので自分で頑張るしか

仕様が無いと思ったのかいづれにしても、担任の指導が

悪いなどと言われずに済んだ生徒諸君の頑張り幸運に

感謝でした。

受験に限らず、結局は人間としての総合力が大切とい

うことかもしれないなどと思つたものでした。

体育館を真つ暗にして太鼓を叩いて「イチコーイチ

コー」と連呼する行事が「伝統」と称して行われていま

した。何時から「イチコー」は「自己の確立」から「洗

脳・調教」に変わったのかと驚かされました。そして、

校歌にある格調高い「賛天地之化育」を思うとき、校歌

制定時の世代として強い違和感を覚えたのでした。

昨年、今回の同窓会の幹事を努めるための準備会を兼

ねた「合同クラス会」に声をかけて戴き、30数年ぶりに

含めて多くの生徒諸君と会うことが出来ました。男子も

女子も何人かから肩書きのついた名刺を貰い、皆社会の

中で然るべき居場所を得て生きているのだと思いまし

た。49歳人生真つ盛り社会の各方面で立派に活躍中と聞

き、教え子などというのは失礼だから、「教え子さん」

とさん付けにすることにしていると話したところ、生徒

諸君大いに笑ってくれました。

担任した生徒諸君は、今でも時々接触のある生徒から、

年に一度の年賀状の生徒、卒業以来全く疎遠にしている

生徒まで、何処かでそれぞれの人生を生きているものと

推察しています。58年卒業生諸君の活躍と発展、多幸を

祈りながら、原稿依頼の責めを果たさせて戴きました。

甲府一高に勤務して 思い出あれこれ



三年四組担任

田中 資時

私が、母校甲府一高に最初に赴任したのは昭和四十二年、二十四歳の時、甲府南高校との総選が始まる前年でした。年若くして母校に勤務できる喜びは格別なものがあり、心の底から頑張ろうという気持ちが湧き、校務の全てに全力を傾注出来たと自負しています。

母校での四年間の在任のあと、遠隔地勤務の四年間を終え再び母校甲府一高へ戻ることとなり、より一層やる気が湧いて決意も新たにいろいろな分野の仕事に邁進しました。

その一つに全校集会のことがあります。着任早々全校集会の司会担当となり、全校生徒の前に立ち、第一声として「若輩ではあるが愛校心と使命感とをもって指揮に当たりたい。どうぞよろしく。」と言って司会に着き、一通り終わってホッと、「ご協力ありがとうございます。」と思わず言ってしまった時、ドツとした笑いと同時に拍手が湧き起り励ましとともとれる暖かさを感じて、よしやるぞと決意を新たにしたのでした。その後、全校集会に対する意義、特質、方法等の指導に対する生徒の真剣な受けとめがあり、毎回周到な準備のもと母校への帰属意識を高めるほどに見事に実施でき、七年間の取り組みを通して「全校集会の『一高』と言われるほどになりました。（詳細は研究紀要八号記載）

二度目に赴任した昭和五十年九月、教科会議の折りに教える内容や指導法を深めるために、授業研究会を実施したいとの提案をしました。その時、全員の支持を得てスタートしたのが「甲府一高体育科の授業研究」の始まりでした。内容としては教材と指導法の研究を柱として、それを具体的に確かめる場を授業と位置付けました。これは授業過程の一時間を公開し、それを参観して、感想・質問・意見等を出し合い研究協議をして授業の改善に役立てようという試みでした。このことにより教師各々が教材観と指導法の力量を高め、よりよい授業づくりに成果をあげました。この取り組みについては授業研究のモデルとして校内教育学委員会、県体育主任会、日本体育学会山梨支部研究会等の折々に発表・報告する機会があり好評を得ることが出来ました。（詳細は研究紀要八号記載）

二度目の母校勤務十二年間での思い出となる二つの事例をあげましたが、やはり強行遠足抜きでは思い出は語れません。強行遠足に生徒として、教員として延べ十九回直接関わりをもてたことを、今更ながら幸運であったと思ひ感謝の念に堪えません。それは主体者である生徒だけでなく、全ての関係者がこの伝統行事から喜び・感謝・感動・達成感等ばかりでなく、時には反省や自ら決

意すること等、生活していく上で大事なことを学ぶことが出来るからに他なりません。強行遠足は、安全安心無事故で実施することをベースに確固たる実施計画（実施要項）に基づき、学校（教職員・生徒）、保護者、同窓生（会）、地域の方々（山梨県長野県コース沿道・検印所）、警察（山梨県長野県）、医療従事者、ブラバンOB、その他関係者の一体となった献身的な協力があつてこそ為せる業といえます。これほど意義深い学校行事は、他には見当たらない天下に冠たるものだと確信します。このことに十九回関われたことは、母校甲府一高でのかけがいのない思い出としてばかりでなく、今も心の糧として生きています。

百周年の記念授業の一環として、佐久往還強行遠足二十周年記念誌が発刊されました。編集委員の一人として作成に携わり、記念誌の内容構成から誌の装丁、原稿と写真や挿絵の割り付け等もまかされて、やり甲斐をもって任に当たった次第です。強行遠足の全体を網羅した記念誌であり、今も時折目を通しては、強行遠足のことに思いをはせ感銘し元気を貰っています。強行遠足は、甲府一高の歴史・伝統を支えるバックボーンだと言えるのではないかと思います。いつまでたっても強行遠足に感謝です。良い思い出です。

五月のうた

三年五組担任

天野 進

歳月の過ぎ行く早さ柿若葉

うつくしき日はきのふの如し

歌人の小池 光さんの歌

(出典「文藝春秋平成25年12月号」)

五月。

空にはひばり、田圃にれんげの花。孟宗竹の藪からは怒張し生命に満ちた筍が天を指して伸びている。

柿若葉は、黄緑の黄が勝った光沢のある葉を広げている。

飛鳥、石舞台から飛鳥寺へ、岡寺へ、段丘を自転車に乗った女学生たちが行く。真っ白なブラウス、紺のスカート、背にくっきりとVの制服。

修学旅行のクラス行動は、飛鳥を自転車で周った。

高松塚古墳を見、近くの文武天皇陵の石垣に並んで弁当を食べていた。「キャ!!」という悲鳴の方を見ると、Kさんが交尾している縞蛇を捕まえて皆に見せて周っている。

元気で、良く勉強するクラスだった。学園祭で男ウクライスに負けるのが悔しいと一致団結努力し、優勝するクラスだった。

同窓会総会の幹事学年といえは50歳。

高校を卒業が18歳、引き算で32年間、様々なことがあったことだろう。

いや、今だって人には知られたくない悩みや苦し

みを抱えているかもしれない、結婚のこと、夫のこと、子どものこと、舅のこと、仕事のこと……。男女共生、女性が輝く時代……。耳には快いが現実の社会は厳しいことばかりだ。50歳と言え、嫁しては、婚家と実家の父母と4人もの介護の重みが両肩にかかる。

強行遠足、一旦は悲しい事故で距離を短縮していたが、男子の終点は「小諸」と復活した。

これからの人生、どんなことが待っているのだろう。その多くはつらく、厳しいものに違いない。萎えそうになる時、くじけそうな時、「小海」まで走ったこと、クラスの全員が終点「小海」まで頑張ったこと。学園祭のことを思い出し、偶には合唱コンクールのときのように、想いきり大声で歌うがいい。

月並みなことばだが、頑張ろう!! これからも元気です。

私にとって皆さんは、担任した最後の生徒です。大切に保管してある「学級日誌」を開いて見ると、「2年に進級した」4/9(木)、「女子クラスになって2日経ちました」4/10(金)、「まさかまさかの女子クラス……」

と青木、飯島さんの記述があります。

女子クラスを作った経緯は、当時、2年次から卒業後の進路、受験予定の大学入試に少しでも有利にと文理・理系と大別してクラス編成をしていました。しかし、この年は理系希望の女子が少なく、



このままでは文系クラスの男子が埋没してしまう(クラス40名中男子が10名以下では男子が萎縮してしまう、逆に40名中女子5〜6名でも大丈夫。女子は強い。)という危惧から、一高では珍しい女子クラスが作られることになりました。そして、私が担任になりました。

「学級日誌」に戻ります。

3年に進級した4/7(水)、赤池さんが「……クラスの方は、念願かなって女子クラス……」4/9(金)、新井さんが「……せんせー、信玄公まつり見に行こーよ……」と能天気なことを書いています。用紙が足りなくて、適当な用紙を貼り足して、感想や意見を書いている者もいます。

音大の推薦入試、実技と面接であがりにながって困った話、受験勉強に集中すると映画が見たくなる心理、高倉健(クラスのかんりの人が健さんのファンでした)、クラーク・ゲイブルと好きな俳優の話等等。

S先生やM先生はじめ教科担任の授業ぶり、髪型やファッションなど、現在ならきつと許されないだろう「逆パワハラ、セクハラ」の表現があります。一見ふざけた記述を通して担任に、仲間自己アピールを懸命にしていたようです。

何しろ賑やかで楽しいクラスでした。

さて、これからの皆さんにどんな人生が待っているのだろう。

「小海」を目指したファイトで、明るく、楽しく乗り越えて欲しいと願ってやみません。重ねて、頑張ろう!! お元気で。

最近考えること・雑感

三年六組担任

望月正樹

一三五周年の実行委の皆様、本当にご苦勞様でございました。

思えば、昨年の学年総会準備会でお会いした時に感じたあのエネルギーと結束力は、やはり本物でした。強行遠足につきましても、同窓会の多数のOBの方々の復活にかけの意気込みが非常に強いことを感じておりましたし、実施面でも、本腰で強力な協力態勢をとっておられることに感動しております。他に類をみない特異な行事に参加できる状況を提供していただいている訳ですので、一高生も積極的に参加してほしいと願っています。元氣旺盛な高校時代は知力を磨くことは至極当たり前のことですが、同時に長い人生を乗り切る為には、若い時から意識的に身体を鍛えることも、とても重要なことだと思っています。かく言う私も、若い時期に今納得できるほどには、意識的に鍛えなかったことはとても悔いが残ります。老齡期に入った現在は、メタボと言うよりは、ロコモティブ・シンドロームに陥らぬ様に、足腰の筋力を強化したり、体幹を鍛えたりして、体のバランスを失わないように努力している毎日です。若い人の中にも、最近骨折事故が増えている感じがしますが注意したいものです。

また私は、一高以外にも、数校の勤務経験があり、数種類の校歌を歌ってきましたが、一高の校歌は中でも秀逸だと思います。

少し漢文調で、歌詞が分かりづらい部分がありますが、学校では内容が理解できるように説明を加えて指導しているようで、結構なことだと思います。歌詞の二番にある「日に新た、また日に新た」の部分は若人のみならず、我々老境の身にあるものにとっても、中々含蓄のある啓発的な言葉です。肉体的にも、精神的にも衰えが感じられるのは、さみしくつらいものがあります。それに対処するためには、やはり毎日を情性で単調に過ごすのではなく、新しいこと、未知なことに立ち向う姿勢を持ち続けることが重要だと言われています。具体的な日常生活を漠然と受け身的に過ごすのではなく、日々考え、少しでも今日を昨日より創造的に、積極的に生きようと頭では分かっているのですが、これを実践するのが中々難しいことです。当時、昭和40年代中頃から50年代末頃まで、英語教育に携わっていましたが、大学入試の影響もあって、読解力と伝統文法の学習が重視され、現在の方向とは、かなりかけ離れたものだったような気がしています。時代が流れ、社会的・経済的要請からその方向性が見直され、ここ2・3年の動きを見ていますと、180度変貌をとげた教科の在り方になり、当時の教師には想像だになかった状態になっています。これだけ変わったのは教科の中では英語だけで、まさしく授業革命が起きているといっても、過言ではないでしょう。現場の

先生方にも、一層の努力と創意工夫が求められている訳で、大変だと思います。先ず文部省でも有識者会議の意見をふまえて、色々な施策を行ってきていますが、裁量権の拡大により動き易くなった各地方自治体が様々な動きを展開するようになってきています。

その中でも、最もポピュラーなものは、中高一貫教育を中軸にすえ、小学校・大学までこのメカニズムに加わり、多種多様な制度で英語教育が行われようとしています。百花繚乱状態とも言えます。決定的な変化は、二年前から中学校・高校に、英語での授業を基本としたことです。急な方向転換には、現場の先生も戸惑いが生まれるだろうし、一方的な授業展開だと生徒の理解や学習効率にも問題がでてきってしまうでしょう。英語学習には、言葉の働きと約束、語彙の習得、文章の組み立て方、一般的教養知識も同時に育てないと、バランスの良い能力開発にはなりません。色々な学習段階で、当分は日本語と英語を上手に使い分けて、検証していく必要があると思います。

アジアNo.1になる目標は目標として、一步一步頑張っていきましょう。

甲府第一高等学校の思い出

三年七組担任

高瀬 司郎



母校、甲府一高を卒業した頃は想像もしなかったが、有難くも母校の教員として一九七八年から八年間在職させてもらった。一九八三年（昭和五十八年）卒業生を送ったのは、もう三十一年前になる。まさに「タイム フライズ」である。在職八年間で三年生を担当したのが四回あるので、いつの卒業生か記憶が混同してしまう。卒業アルバムを取り出してみて、記憶がよみがえる。ウイリアム皇子を抱いたダイアナ妃の写真がある。フオーランド紛争のあった年だ。一九八五年の「プラザ合意」以前のまだ日本の勢いの良かった時代だ。映画では「E.T」のヒットした頃、歌では平浩二の「バスストップ」の頃だ。思えば今のようにインターネットもなく、スマホどころかポケベルでさえもう少し後だったでしょう。隔世の感があります。アルバムを見ると三年七組の懐かしい顔が見える。私にとってこの年度の三年生は

勤講師をしている学校の女生徒から言われました。そのお母さんがHさんでした。気恥ずかしい。今ならば、教科以外にも、もっとまじな指導ができただろうに。と思うと申し訳ない気持ちになる。忸怩たる思いである。卒業生の皆様お許しください。

一、二年からの持ち上がりではなく前年の三年から引き続いている三年担当であったため一、二年次の記憶はない。懐かしいアルバム写真を見て、若き頃の力不足の担任であったことが、とても恥ずかしい。この年度の三年生にHさんがいる。「私の母が一高で先生に教わりました」と先日、非常

あれから、私も色々なことがありました。卒業生の皆さんも、もう立派なお父さん、お母さん。「男子三日会わされば刮目して見るべし」。三日どころか三十一年も経てば、さぞかし立派になられたことと推察いたします。社会の中核として活躍されていることでしょう。近く取りざたされている県知事選や、甲府市長選にこの年度に近い卒業生が噂されていますが、当然の年代でしょう。

一高を取り巻く環境も変わりました。少しだけ感想を述べたいと思います。

甲府一高に在職していたこの時代、「一高から強行遠足を取ったならなんにも残らない」などと冗談交じりに聞かされた台詞がありました。総合選抜の時代に入り、ナンバースクールとしての県下一番のエリート校ではなくなったことは事実ですが「なんにも残らない」はないでしょう。強く反発したくなる自分がいました。私が一高を去った

後、「英語科」ができましたが、進学実績で他校に負けたくないと言う思いは今でもあります。東大だけが大学ではありませんが、古希を過ぎた今でも、郡内のY高校、東大9、甲府の私立S高、東大8などと聞くと、年甲斐もなく胸の奥でまたもや血が騒ぐのを覚えます。

「天地の化育を賛くべし」一高の校歌。私は甲府一高以外に、いくつもの高校で勤務いたしました。それぞれに持ち味のあるすばらしい校歌でした。でも、一高の校歌は別格の感じがします。

一高校歌は平凡に普通に歌われてもよいのですが、あるいはまた、我が校歌のDNAに触発される魂が幾つか現れても不思議ではないでしょう。

国民皆教育的な基礎基本を根底に、高みを目指す一群があっても良いでしょう。

がつしりしたコンクリート造りの、あの油くさい校舎ではなくなり、懐かしい講堂もいまやありませんが、一高は一高です。「日に新た、また日に新た」。母校に幸あれ。

思い出

あなた方の学年で、どうしても忘れられない思い出がある。この場にあまり相応しい話ではないかもしれないが、君たちが卒業して30年以上が経ち、良いとか悪いとかではなく、一つの思い出として書くことにした。

私は一高に奉職している間は、毎朝家から15分かけて歩いて出勤し、職員室に荷物を置き、まず君達が来る前に教室に変わりはないか確認してから職員室に戻り、他の先生達のお茶を入れるのが毎朝の日課であった。当時私たち教員は、朝礼の後職員室でラジオ体操を全員で行ってから授業に向かったのを覚えている。

卒業式の前日も、私はいつものように出勤し、いつものように過ごして一時限目を迎えた。

その日は、明日の卒業式を迎えるための最終リハーサルと大掃除をしただけで、生徒はほぼ午前中だけで下校したと記憶している。

ほとんどの生徒達の進路も決まり、後は明日の卒業式を無事に迎えるだけだと、ほっと一息ついているとその事件の知らせが飛び込んできた。なんと教室のいくつかの机の脚が、のこぎりのような物で切られていたのだ。机の脚を切った子はすぐに判明したが、それからが大変であった。

このことが議題の職員会議が開かれることになれば、ほぼ間違いなく卒業は取り消されていたであろう。このまま見過ごすこともできないし、なによりすでに数名の先生が知るところとなっていた。卒業させないことは簡単であったが、私は何

とか今まで一緒に生活してきた友達と一緒に卒業させてあげたいと強く思った。

みんなも覚えているかもしれないが、私は毎月席替えをしていた。それはクラスの中で、なるべくみんなと話ができるように、話をしなかったという子がいないように、クラスの連帯感を増すためだったのだが、ここにきて一緒に卒業できないのなら何のための席替えだったのであるうかと思った。

家のほうに連絡を取ったら幸い保護者がすぐに学校に駆けつけてくれたので、三人で関係各所の先生方をまわって頭を下げ、事なきを得た。

私の長い教員生活の中でもこのような例は他にはないが、不思議と私の中でも驚くほどあまり嫌悪感はなかった。もちろんその当時は、卒業式の前日にとんでもないことをしてくれた、と怒りに震えたことも覚えていたが、次第にこの子の心の声を聴いてあげられていなかったのだと自分を責めたりもした。

君たちを送り出した後、もう一年教員を続けてから親の介護のために退職したのだが、退職後、親や自分の子供との濃い時間を過ごす中で、子の立場・親の立場に立ちながら、机の脚を切ってしまった子の心境をさらに考えるようになっていった。もちろん考えたからといって、いまさらその子に何かしてあげられるわけでもないし、何か結論が出るわけでもないことは百も承知であった。

現在ならとても一教員の思いだけで許される事



三年八組担任

向井公子

案ではないが、まだおおらかな時代であったことも幸いした。

たとえば、一昔前は職員室や電車の中など、どこでもタバコを吸っていた時代の喫煙状況や、もっとさかのぼればシーザーやハンニバルが闘っていた頃の奴隷の問題や現在では非人道的といわれる昔の戦争など（戦争に人道的なものがあるとは思えないが）、現在と比較することは有意義であるが、現在の価値観で評価を下したり良し悪しを判断したりするのは、一面ではナンセンスなことである。

机の脚の話も、先にも書いたが良い悪いではなく（もちろん褒められることではないが）一面そういう時代であったということである。

いずれにしても、そんなことが有ったお蔭で、君たちのクラスのこととはとてもよく覚えている。良い思い出と言う訳にはいかないかもしれないが、私の心の中に刺さった、目に見えないようなとつても小さな棘で、痛くはないが痛痒いような思い出として残っている。その子とも、笑って昔話の一つとして話せることを願っている。

みんなが卒業して何十年か経ち、楽しい思い出として話ができる時期に來ていると実感するくらいにちである。自然災害や変な事件が多い時代だが、今回の同窓会で皆に再会できる普通の幸せを感じながら生活している。

遥かなる二十八km

一高OB強行遠足



発起人の内藤泰蔵さん



県立甲府第一高等学校

2014年11月2日(日曜日)、10回目を数える「甲府一高OB強行遠足」が実施された。

甲府一高OB強行遠足は、2002年に起きた不慮の事故により甲府一高の強行遠足が廃止か存続かの岐路に立たされ、ひとまず距離を短縮して続けられたものの、小諸までの100キロを踏破する伝統行事としての強行遠足を復活させたいという内藤泰蔵さん(昭和42年卒)をはじめとするOBが、小諸復活の願いを込め、開催時期を本来の強行遠足が実施された11月3日に決めてこの行事をスタートさせた。

甲府一高をスタートし、28km先の北杜市長坂町のオオムラサキセンターがゴールとなり、各チェックポイントでは本家強行遠足と同様に検印を受けることになっている。

当日の模様を135周年甲府中学・一高同窓会実行委員会、記念誌部会の青山浩(昭和58年卒)が取材した。

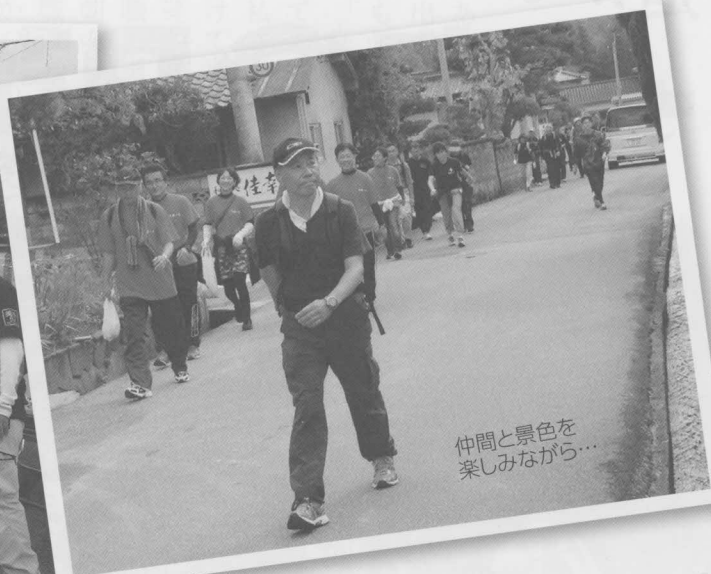


検印所も本家そのまま。



上を向いて歩こう!

た。卒業させないことは簡単であったが、私は何
現在ならとても一教員の思いだけで許される事



仲間と景色を
楽しみながら...

午前7時、一行は甲府一高を出発。「甲府一高OB会」の旗を手にした先導者の後からOBやOGが和気あいあいに語り合いながら、そして昔を思い出しながら歩を進めた。

昭和18年卒から59年卒までと参加者の年代は幅広いが、ここではみな青春時代の一高生に戻っているようだった。

今回各チェックポイントでは昭和52年卒のOB有志19名が参加者をサポートし、検印や給水を行っていた。このサポートはOB強行遠足がスタートした年から繰り返し下がりで年次の卒業生が行っているという。こうしたサポート体制の連携があつてのOB強行遠足であり、それが本家一高強行遠足の実施にも繋がっているのだと感じさせた。

第二チェックポイントの韮崎市陣屋址では、昭和19年卒で、現在89歳になる山寺義雄さんが一行を出迎えていた。山寺さんは毎年参加していたが、今回は風邪を引いてしまい、歩く事は諦めた。しかし後輩たちと交流したいと応援に駆けつけた。「こういう行事があると同窓生が一つになれるので楽しい。また友情も深められる。」とにこやかに語り、次回は是非みんなと一緒にゴールを目指して歩きたいと意欲を見せていた。

第1回から参加している加賀美研一さん（昭和42年卒）は、「このOB強行遠足も一つの流れを作り、本家強行遠足も小諸までの行程が復活して、本来の目的は達成できた。こうしてみんなと一緒に歩くことで年をまたいだコミュニケーションが取れ、同窓会と違って良いものになっている。卒業年度別のライバル意識というのもあり、それも楽しい。」と汗を拭いながら話してくれた。





ゴールで最後の検印を済ませた参加者を待っていたのは、あの思い出のシジミ汁。参加者は我先にとシジミ汁の入ったカップに手を伸ばし、「懐かしい、美味しい」と歓声を上げながら味わい、お腹も気持ちも温めていた。

休憩場所では各卒業年ごとにグループを作ったり、高校時代に同じクラブで過ごした仲間同士で集まったりして、それぞれにおにぎりをほおぼりながら、これまでの道のりを振り返り、お互いを讃えあっていた。

高校時代を過ごした仲間と共にゴールを果たし、さっそく宴会を始めた加藤欣也さん（昭和38年卒）は、「最後の坂はきつかったが、同級生と昔話をしながら歩くのは本当に楽しい。これが一高の絆の原点じゃないかと思う。元気なうちは歩き続けますよ。」とビールを手に語った。

夫婦で参加して8年目という雨宮邦弘さん正美さん夫妻（共に昭和50年卒）は、「二高から6時間、歩きながらの会話ができ、同級生との親睦が図れる。長坂までの28口を歩いたという達成感もある。毎年少しみにしている。」と話してくれた。

現役時代、3年連続で小諸到達を果たした今福勝さん（昭和59年卒）は、「一高には強行遠足という伝統行事があるんだと小諸まで行った昔をここで懐かしむ気持ちもあるが、

このOB強行遠足には年代を超えた交流が生まれる良さがあり、人生の先輩の話が聞けるので、ありがたい。」と話す。

武川町の第四チェックポイントまでは、先導者を越してはならないという決まりがあり、参加者は周囲の紅葉と同窓生との会話を楽しみながら歩いてきたが、検印を受けた後、ゴールまでの残り4キロは自分の体力に自信があれば走っても良い事になっている。健脚を競う者は最後の心臓破りの坂を一気に駆け上がり、そうでない者はお互いを励まし合いながらひたすらにゴール目指して歩を進める、青春時代と変わらない姿がそこに見えた。

1位でゴールした牛山邦彦さん（昭和51年卒）は「高校時代は3年間一度も小諸に辿り着けなかった。高校の時にゴールできていない分、なおさら1位になりたいという思いは強い。」と話す。

これが8回目の参加という斉藤隆さん（昭和46年卒）は「高校時代を思い出せる機会が少ない。このOB強行遠足は時期的にも丁度良し、同級生だけじゃなく、先輩とも仲良くなれる良い行事だ。回を重ねるごとに参加してくれる仲間が増えてきて楽しい。」と話した。

閉会式では、このOB強行遠足を立ち上げ、10年にわたって世話人としてこの行事を支えてきた内藤泰蔵さんが、「強行遠足の小諸復活を祈念して始めたOB強行遠足は、昨年（2013年）小諸までの105キロが復活したことで、当初の目的は果たす事ができた。これで止める事も考えたが、これまで参加された方々からOBやOGの親睦の場として続けて欲しいという声が多く、実施する事にした。年々参加者が増えて大きな行事となり嬉しいことではあるが、それだけに大変な事

も多い。今後も続けていきたいので若い世代の協力が必要だ。」と語り、参加者は内藤さんの労を労い、感謝の拍手で甲府一高OB強行遠足は終了した。

取材をしてみると、「甲府一高OB強行遠足」は卒業生の絆を深める一大行事となっていることがわかった。しかし、ここには各所への交渉などを一人で行ってきた内藤泰蔵さんという功績者があってのものである。これからこの行事を継続していくのかどうかは、OB・OGが活動を組織的に行う必要があると感じ、11回目のOB強行遠足開催を望みたい。

一位でゴールした
牛山さん



この旗越すべからず



金子文乃フラメンコスタジオ	85	貢川進徳幼稚園	98	甲府信用金庫	45	三枝酒店	82
(有)金丸組	86	(有)草津温泉	34	(有)甲府スポーツ	79	齊藤内科循環器科医院	62
社会医療法人 加納若	24	串揚げ深澤亭	66	甲府青果(株)	56	彩量庵 たん澤	81
カフェ ロッシュ	101	割烹くしだ	89	(有)甲府製本	88	境川カントリー倶楽部(金丸信吾)	表 4
cafe foo	105	窪田道也税理士事務所	58	学校法人甲府西幼稚園	98	(株)坂本建運	66
川口尚弘	73	医療法人淳道会 限部小児科医院	73	甲府日通興業(株)	100	作地製本所	88
(株)カワチャ装飾	76	グラクソ・スミスクライン(株)	95	甲府脳神経外科病院	29	桜こどもクリニック	92
(有)管清社	86	(株)グランドエコ	91	(資)甲府風月堂	11	桜林内科眼科医院	93
き		(有)クリンアシスト	92	甲府富士屋ホテル	20	(有)ささごん	92
菊池原歯科医院	81	(株)クリエイトパートナーズ	61	甲府南ライフケアセンター	7	(有)ササモトスタジオ	83
(株)機山堂	105	群芳園	63	甲府冷暖工業(株)	100	サトウ歯科医院	53
北野医院	52	(有)ケイ・エム・エスカンパニー	107	甲府ワシントンホテルプラザ	92	(株)サドヤ	12
(有)キタムラ	89	慶雲館	69	(有)弘法湯	87	佐野工建(株)	33
吉運堂	82	(有)ケイ・エム・エスカンパニー	107	(有)晃佑測機	103	(株)佐野工務店	77
吉川外科・整形外科医院	74	(医)恵信会 恵信甲府病院	31	宏和建設(株)	87	茶房どんぐり	80
キッセイ薬品工業(株)	72	(有)ケイツーメンテナンス	65	国際勧業(株)	86	(株)澤田屋	73
橘田耳鼻咽喉科医院	80	慶明幼稚園	88	国際建設(株)	89	さわ洲	70
ギフトランド SATO	82	(株)ケンメイ	90	五光電工(株)	66	三愛印刷	100
キミーズアヘッド(株)	41	(有)剣持商会	102	(有)小島精肉店	90	(有)サンエー企画	104
(株)きむら	72	こ		(株)コスモエナジー	78	山進興業(株)	94
(有)きものあさかわ	55	コーエー(株)	80	(株)古名屋	163	(株)サンテック	103
きものと帯常盤	108	(株)小泉	162	(株)コバヤシ	75	サントリー酒類(株)	54
キャタピラーイーストジャパン(株)	106	小泉教室	81	(有)小林燃料店	30	山日 YBS グループ	表 2
キャンパス	102	小泉バレースタジオ	81	(有)コバヤシビデオ	54	サンフーズ(株)	95
キューエット	36	(株)光彩工芸	46	個別指導塾チャレンジ	95	(株)サンポー	95
(有)共栄小林	92	(医)銀門会甲州リハビリテーション病院	64	五萬円館	103	三友自動車工業(有)	91
峡西運送(有)	96	(株)合同タクシー	105	五味設備	107	ザ サンラウンジ甲府店	84
特定医療法人南山会 峡西病院	51	河野スポーツ(株)	105	小山医院	75	(株)三和化学研究所	84
(医)共生会 NAC 湯村	48	甲府一高昭和54年卒同窓会	42	皮膚科・泌尿器科 近藤医院	99	C & L	76
共同電設(株)	92	甲府一高昭和55年卒同窓会	34	(株)近藤モータース	107	(株)ジー・エフ・アイ	87
杏林製菓(株)	71	昭和56年・57年卒業 野球部無尽会	103	(株)コンピュータマインド	54	JMC 甲府	95
協和産業(株)	56	甲府医療秘書学院	87	紺米	89	塩野義製菓(株)	72
協和発酵キリン(株)	53	甲府外車販売(株)	91	さ		(株)塩部自動車	91
(有)キング珈琲	65	甲府城南病院	89	(株)齊木煙火本店	106	歯科若尾	103
金峰	101			(株)サイキ宝飾	50	敷島金属工業(株)	97

シキシマ醤油(株)	80	白須測量調査事務所	89	たま動物病院	90
寿司・割烹 治作鮨	67	(株)白根アルミ	88	(株)たまパッケージ	99
(株)システムインナカゴミ	59	(株)白根ベニヤ	100	玉穂ケアセンター	76
時代屋	91	(株)寝具の望月	107	玉諸歯科医院	104
ジット(株)	61	新幸園	100	(有)タマヤ商店	89
(株)シッパス	107	新星電機(株)	68	だるま家	69
篠原歯科医院	103	新藤歯科医院	101	(株)タンザワ	107
(有)篠原電研	67	(株)新和運輸	96	たんばや化粧品店	106
篠原貿易(株)	98	スィーツ銀の糸	104	ホテル談露館	100
島田貴金属	42	(株)末木組	71	TEAM57	14
清水クリニック	77	須具整形外科医院	76	チムミ三道	98
(株)清水クレーン工業	99	すが建設	97	千野板金工業所	85
清水工業(株)	78	杉田小児科医院	63	中央コンクリート工業(株)	46
(有)シミズ酒販	37	すし処 魚保	91	中央歯科医院	107
シミックホールディングス(株)	59	鈴木歯科医院	88	(株)中央車両販売	79
志村内科医院	76	鈴木製菓(株)	106	中外製薬(株)	100
(株)シャトレゼ	68	すずきネフロクリニック	37	ごはんBAR ちろりん村	83
(有)ジャパンアートメモリー	106	(有)鈴屋リネンサプライ	105	つ	
ジャパンメディカル	104	寿々屋酒店	90	(株)津々美造園	75
ジャパンワクチン(株)	95	Slow life	79	露木耳鼻咽喉科医院	74
(株)シャルム	72	せ		鶴田法律事務所	99
(株)十一屋	89	学校法人 聖愛幼稚園	81	て	
(株)住建	73	(株)清興	84	ディアハート	106
(株)秀和工業	92	整体院 拓輝(ひらき)	104	ディサービスセンターあさかわ	51
juta	83	積水ハウス山梨(株)	41	ディサービス楽泉	102
首都圏国分(株)	98	セコム山梨(株)	83	帝人ファーマ(株)	54
医療法人内藤会 順聖クリニック	63	セブンイレブン甲府徳行1丁目店	94	出井農園	81
(株)SHOEI	60	セブンイレブン甲府中央店・甲府美咲店	87	(株)テクニカルスチール	98
(株)少國民社	35	全国共済農業協同組合連合会	85	てっぱん秀	95
(株)正直堂	102	(有)千秋舎	102	(株)テレビ山梨	98
(有)昭和総業	88	(有)セントラルホームズ	103	(株)テンヨ武田	68
昭和測量(株)	67	(株)千里水産	85	と	
昭和田中歯科医院	103	社会福祉法人 善隣会	66	東海東京証券(株)甲府支店	80
昭和土地建設(株)	100	そ		東京セキスイハイム(株)山梨支店	21
昭和メディカルサイエンス	91	創甲斐建築設計社	82	東京体器(株)	70
(有)食彩	104				

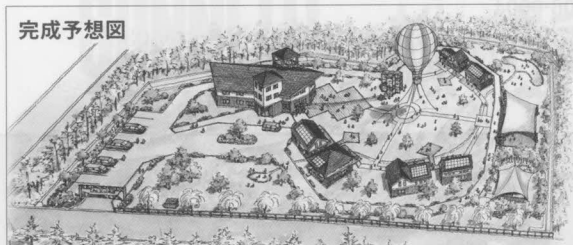
東京地方税理士会・甲府支部日新会	2・3	(有)名取自工	82	富士島建設(株)	57
(株)道志川温泉	96	七沢歯科医院	88	(株)藤二誠	26
東八商事(有)	96	ナリス化粧品Deem	103	不二製パン(株)	93
(株)東和	94	(株)西井電設	70	富士生コンクリート(株)	98
常磐ホテル	48	(株)日医工山梨	47	内科・心療内科 藤原医院	63
ドクターケーニツヒ甲府昭和	86	日眼甲府薬局	75	藤原会計事務所	55
(株)トミオカテニス	88	日星(株)	105	藤原建築設計事務所	98
富竹歯科医院	95	日東金属(株)	101	富士見歯科医院	79
トヨタホーム山梨(株)	57	日東商会	98	京呉服ふじや	74
(株)とりしん	107	二宮眼科医院	80	(株)芙蓉設計事務所	102
(株)鳥林	49	二宮公俊	22	(株)プラスター	92
とんかつ とん甲	97	日本食研(株)	102	purin house	91
とんかつ串揚げ まるじゅう	80	日本新薬(株)	95	(株)フレアス	67
葡萄・溜	106	日本料理 多木	80	(株)ブレイン	65
な		ホテルニュー芙蓉	89	(株)ブレイシアコーポレーション	86
内藤乳販	106	(株)ニュー平和	46	(有)フロンティア保険	84
(株)内藤ハウス	13	ネットヨタ甲斐(株)	8	ヘアーサロン ゴトウ	83
なおはる	96	ノア動物病院	97	ホテル平安	45
(有)中栄商店	107	のぞみ薬局	81	(有)平誠工業	94
(有)中川看板店	89	(株)野中	88	ペイントリフォーム	77
中川光洋	107	(有)野中製材所	72	ほ	
ナカキンリス(株)甲府工部	85	ノバルティスファーマ(株)	95	(有)北條油店	101
中込会計事務所	91	野村證券(株)甲府支店	44	(有)豊和興業	95
(株)中込建設	104	は		(有)北宝エステート	95
中込建設工業(株)	69	(株)ハートフルスタッフ	81	(株)保険ドリーム	99
(株)中込宝飾	64	(株)ハートメディカル	104	保坂メディカルクリニック	85
中澤経理事務所	44	(株)ハウスネット	69	細田眼科医院	64
中沢歯科医院	81	畑歯科医院	94	ホンダ不動産(株)	72
なかざわ歯科医院	82	ハタノ薬局	71	(株)ほていや	106
(有)中沢実業	86	(株)羽中田自動車工業	53	ホテル吉野	99
なかざわ耳鼻咽喉科クリニック	70	花形歯科医院	80	保延工務店	87
ながせき頭痛クリニック	43			堀内整形外科医院	62
ながまつ医院	80			堀内平嶋法律事務所	106
(株)中村	96				
(株)中村建設	51				
なかむら内科クリニック	81				

ま	Meiji Seikaファルマ(株)	97	山梨交通(株)	59	依田酒店	90
(株)マーケットイン	山梨交通自動車学校	86	山梨自動車産業(株)	48	(株)依田商店	91
(株)MAE ZAWA	山梨品川燃料(株)	65	(株)山梨自販	84	(有)依田水産	89
前田内科クリニック	山梨信用金庫	76	(株)山梨新報社	65	読売センター甲府駅北	93
マコト医科精機(株)	(株)山梨新報社	49	山梨大学医学部OB交響楽団	27	ライ斯拉	105
旬料亭 まつ川	山梨大学医学部OB交響楽団	100	山梨中央銀行営業本部	67	ラウンジ麻美	28
マツダボール(株)	山梨中央銀行営業本部	79	山梨トヨタ	56	楽水園ホテル	87
松中商店	山梨トヨタ	106	山梨トヨペット(株)	104	(株)ラッキー商会	31
マリエ・エンタープライズ(株)	山梨トヨペット(株)	87	NPO法人山梨ホスピス教会	56	リーガルエキスパート	103
(有)マルイチ中沢	NPO法人山梨ホスピス教会	40	(株)山梨北研	64	リーフ荻崎	49
丸十山梨製パン(株)	(株)山梨北研	88	山梨予備校	104	リカーショップNAGASAWA	82
(株)マルモ	山梨予備校	32	山本金属	92	(株)立地企画	52
ミートプラザよだ	山本金属	90	山梨県立病院	80	龍王産業(株)	73
ミキ建設	山梨県立病院	87	山梨県立中央病院	106	(医)仁和会 竜王リハビリテーション病院	44
御崎神社	山梨県立中央病院	89	山梨県立中央病院	82	竜王レディースクリニック	74
(株)みずほ銀行甲府支店	山梨県立中央病院	26	山梨県立中央病院	82	旅館 明治	85
三井クリニック	山梨県立中央病院	63	山梨県立中央病院	82	レストランバーSAIKI	93
三井歯科医院	山梨県立中央病院	97	山梨県立中央病院	82	(株)ロード	76
三井住友海上火災保険(株)	山梨県立中央病院	79	山梨県立中央病院	82	(株)ワイ・イー・エス	93
(株)三井住友銀行甲府法人営業所	山梨県立中央病院	61	山梨県立中央病院	82	(株)YSK eicom	58
三塚歯科医院	山梨県立中央病院	103	山梨県立中央病院	82	(有)ワイ・エス・ケイ	97
三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)	山梨県立中央病院	68	山梨県立中央病院	82	若尾倶楽部	33
薬袋整形外科	山梨県立中央病院	90	山梨県立中央病院	82	若尾歯科医院	98
薬袋内科循環器科医院	山梨県立中央病院	70	山梨県立中央病院	82	若尾塗装店	91
薬袋レディースクリニック	山梨県立中央病院	71	山梨県立中央病院	82	若奴食堂 相沢茂幸	107
(株)湊與	山梨県立中央病院	68	山梨県立中央病院	82	ワタキューセイモア(株)	81
(株)ミヤウチ	山梨県立中央病院	97	山梨県立中央病院	82	渡辺建設興業(株)	47
宮川米肥店	山梨県立中央病院	101	山梨県立中央病院	82		
(株)三宅建築設計事務所	山梨県立中央病院	92	山梨県立中央病院	82		
宮澤医院	山梨県立中央病院	63	山梨県立中央病院	82		
(有)ミュージックハウス石川	山梨県立中央病院	50	山梨県立中央病院	82		
む	山梨県立中央病院	74	山梨県立中央病院	82		
向山クリニック	山梨県立中央病院	68	山梨県立中央病院	82		
(株)メイキョー	山梨県立中央病院	27	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	1	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	58	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	87	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	94	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	91	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	104	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	105	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	55	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	15	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	80	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	90	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	87	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	102	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	24	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	102	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	78	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	103	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	90	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	107	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	83	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	78	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	83	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	83	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	43	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	39	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	79	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	100	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	49	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	97	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	65	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	86	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	97	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	59	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	48	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	65	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	27	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	67	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	56	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	104	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	64	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	94	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	85	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	82	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	85	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	82	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	16	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	67	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	86	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	69	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	96	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	43	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	78	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	64	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	96	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	77	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	96	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	64	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	64	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	96	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	77	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	96	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	64	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	62	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	84	山梨県立中央病院	82		
	山梨県立中央病院	40	山梨県立中央病院	82		
	山梨県					

難病のこどもたちのための 「みんなのふるさと“夢”プロジェクト」は前進。 みんなのふるさと 夢プロジェクト

白州の地に「あおぞら共和国」建国!

甲府一高同窓生の皆様にここ数年ご寄付の願いをしてきました「みんなのふるさと夢プロジェクト」(難病の子どもたちのためのキャンプ場(サントリー白州工場より徒歩3分)の建設)は、おかげ様で順調に進行し、2014年に2棟、そして2015年も2棟が完成します。今まで同窓生の皆様には多くのご支援をいただき心より感謝申し上げます。昨年夏にはキャンプ場の名前が「あおぞら共和国」と決まり、秋からは利用も始まりました。一般の宿泊施設に泊る旅行なんてしたことのない難病の子どもたち、そしてその兄弟の笑顔をとくさん見ることができました。しかし、完成まではまだまだです。引き続きご協力をお願いします。



あおぞら共和国の完成予想図です。甲斐駒ヶ岳の山麓の3000坪の土地に、樹で出来た温もりのある山小屋を2棟一組として全部で6棟を建てます。中心にセンター棟を配します。



甲府一高の有志でサポート隊「甲府一高あおぞら会」結成
 外の世界を知らないで育っている難病の子どもたちを自然の中に連れ出すお手伝いをしています。

甲府一高あおぞら会 会員募集!!

このプロジェクトに共鳴する我々一高同窓生でキャンプ場の建設・運営を支援する会「甲府一高あおぞら会」を設立いたしました(年会費3000円)。会長は45年卒の露木和雄(副会長:軽石泰孝、事務長:山本秀彦)。「甲府一高あおぞら会」は今後、新緑チャリティーウォーク(毎年4月に実施)を柱とする様々なイベントを企画し、ひとりでも多くの難病の子どもたちやその兄弟に、風のそよぎ、小鳥のさえずり、満天の星を体験させてあげられるよう「あおぞら共和国」建設をサポートします。会員を募集しています。ホームページ、FAX、お手紙にて(ご氏名、卒業学年、ご住所を記載)お申し込みをお願い致します。

キャンプ場建設の主催者＝認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク「みんなのふるさと夢プロジェクト」

入会申し込み＝甲府一高あおぞら会 ホームページからメールで→ <http://www.ymkp.net/aozora/> FAXで→042(786)4132
 お手紙で→〒252-0233 神奈川県相模原市中央区鹿沼台1-7-7 おぐちこどもクリニック内 甲府一高あおぞら会行

おぐちこどもクリニック院長 小口 弘毅 (S45年卒)

第135周年 甲府中学・甲府一高同窓会 学年協賛者氏名

〔1組〕

上田 雄大
加賀美 聖一
保坂 俊彦
青柳 守
深沢 宏樹
守屋 壮一
清水 成美
若尾 一広
高坂 政己
功刀 寿幸
藤巻 智樹
雨宮 裕樹
長沼 宏明(故人)
宮原 達史
保延 吉広
茅野 勉
赤池 俊樹
上野 吉輔
前田 修
赤池 正男
小林 高志
小野 健

〔2組〕

内藤 修
高坂 みか
榛原 洋一
新谷 隆之
庄司 和彦
米沢 繁明
千野 千里
塩沢 明久
花形 謙司
井川 雅之
三井 秀治
内藤 さゆり
清水 由美
河野 正紀
山村 周三
戸沢 伊津子
塚原 卓郎
蛭原 秀典
有井 宏之
原田 久嗣
鈴木 伸幸

〔4組〕

向井 一哲
橋本 百合
中澤 真理
中田 聡
丸山 昌也
清水 和仁
中沢 敏明
三浦 博美
深沢 満
白川 さおり
中島 貴子
小林 隆広
三井 貴美也
井上 文人
堀内 美佳子
内藤 幹夫
石川 友理子
佐藤 公彦
一条 卓
石橋 雅子
白倉 明美
千野 小夜子

〔5組〕

青山 浩
渡辺 靖彦
武川 竜哉
塩沢 充正
大原 勝一
櫻井 直美
北 美竹代
大芝 由紀子
養和 田直子
伊東 久実
保坂 邦子
萱沼 千春
芦澤 みはる
越石 優子
岡部 綾子
稲葉 里美
中込 利江
森川 都代
手塚 和美
大橋 いづみ
齊木 厚子
若尾 まゆみ

〔6組〕

間 ますみ
佐藤 千恵
長田 孝子
星野 晴信
守木 智
長谷部 亮子
小泉 徳昭
村井 純一
秋山 功
深沢 久美
有賀 久浩
川合 孝徳
駒形 かおる
深澤 由美
小澤 洋子
井上 良章
村松 直樹
杉本 三枝
佐野 真弓
上田 隆司
秋山 辰朗
小森 博之

〔7組〕

土橋 八重
竜澤 光朗
上野 千鶴
吉村 幸一
三井 実
本田 祐子
武居 和彦
福田 千絵
藤原 千津子
若尾 美保子
松谷 俊
田中 ひさ江
興石 和利
清水 昌行
山田 真治
穴水 努
宇津木 吉美
赤池 修
高山 中
須賀 妙

【8組】

前原 一文
日原 武
平山 敏夫
相模 稔
荻野 順子
藤巻 信哉
千野 廣子
平井 朗
神戸 邦子
多田 光良
望月 久子
小口 賢司
依田 裕之
望月こず枝
平出 哲也
中嶋 幸人
中込 成之

【9組】

堀内 美保
榎 恵美子
野田亜由美
渡辺 良恵
成澤 薫

植田 博美

前田 朝美

野沢 政美

萩原なを美

【10組】

山本 淳仁
東福寺愛実
小林 浩司
大塚喜久美
保坂 力
鶴田香予子
萩原まゆみ
村松 千里
横田 候二
中山 浩文
樋 かほる
志村 朋彦
塩沢 英洋
古屋 文月
矢野 圭作
青木 紀江
安達実名美
三枝 茂人

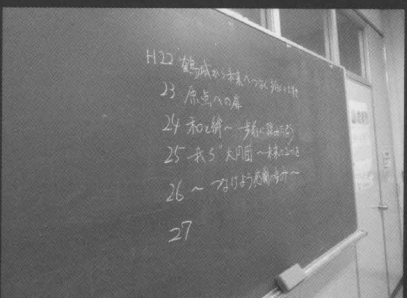
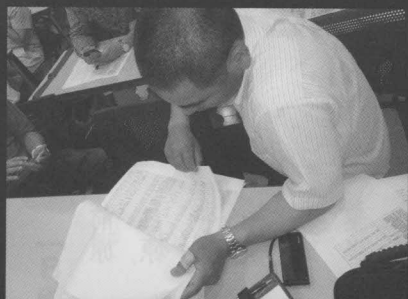
(順不同
2015
4・3現在
172名)

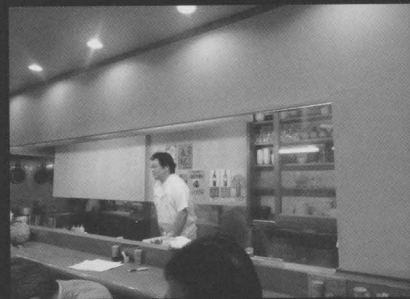
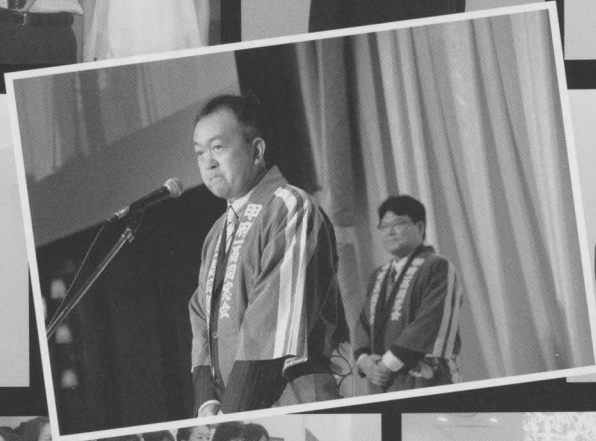
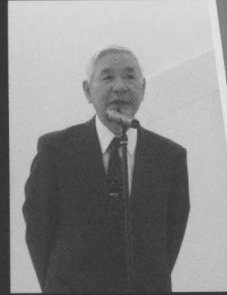
第135周年 甲府中学・甲府一高同窓会 実行委員会役員氏名

実行委員長		山本 淳仁	
副実行委員長		清水 昌行 吉村 幸一	
幹事 長		佐野 真弓	
副幹事 長		清水 成美	
事務局 長		輿石 和利	
事務局 次長		堀内 美保	
東京幹事 長		三井貴美也	
広告部 会長		小林 浩司	
副部 会長		藤巻 信哉 北 美竹代	
チケツト部 会長		加賀美聖一	
副部 会長		榛原 洋一 蛸原 秀典	
記念誌部 会長		小林 隆広	
平成12年卒幹事		樋川 義樹	
クラス役員			
1組 清水 成美		2組 榛原 洋一	
3組 蛸原 秀典		4組 深沢 満	
5組 北 美竹代		6組 小泉 徳昭	
7組 輿石 和利		8組 藤巻 信哉	
9組 岡田 薫		10組 小林 浩司	

真面目に議論し、真面目に呑む。

嗚呼、素晴らしきかな58一高会の面々。





写真を見ると、ほとんど飲み会みたいですが…。
同窓会幹事学年の役割を忘れずに、会議・飲み会・飲み会・飲み会・会議のパターンを繰り返す2年間でした。



真面目に議論し、真面目に吞む。嗚呼、素晴らしきかな58一高会の面々。



TASUKUBESHI TENCHINO KAIKU

賛天地之化育

編集後記

第135周年 甲府中学・甲府一高同窓会のテーマは「賛天地之化育(たすくべし てんちのかいく)」。このテーマにふさわしい特集記事をどうするか…難しい問題が立ちはだかりましたが、無事に発刊できる運びとなりました。ご協力いただいたすべての方々に感謝申し上げます。

50歳という人生折返し時期の絶妙な年齢に巡ってくる当番幹事。この素晴らしい経験を活かして残りの半生を反省しないように生きていきたいものです。(記念誌部会長)

第135周年 甲府中学・甲府一高同窓会

賛天地之化育

TASUKUBESHI TENCHINO KAIKU

発行日:平成27年5月16日 発行:第135周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会 編集:記念誌部会 制作・印刷:総合印刷 文文社



心はひとつ甲子園

県立甲府第一高等学校野球部

心はひとつ甲子園

「甲子園」

なんとも青春を感じる三文字

高校球児誰もがそこを目指し 一丸になった目標

その目標を達成するために日々練習をし

泥だらけになり

汗と涙にあげくれた

あの青春の日

全国のファンを魅了して

テレビの前にくぎ付けにできる

一球 一打 一挙手一投足に

全国民を感動させることができる

数少ないもの「甲子園」

我々が母校甲府一高も過去に何度か

この「甲子園」出場を果たしている

そして今もなお 後輩たちがこの甲子園を目指して

連日連夜練習に励んでいる

今一度 我々の夢であった「甲子園」に

連れて行ってもらいませんか？

現役と同窓生の心を一つにして

ともに母校の校歌を

アルプススタンドで声高らかに歌うために…



同窓生の気持ちが伝わり、夢かなう瞬間を願って、
記念(祈念)ボールを販売いたします。

**甲府一高校章入り
硬式野球ボール
1,000円／2球**

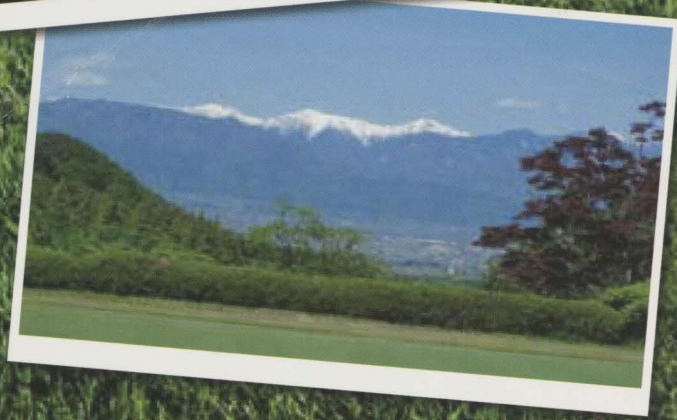


※写真はイメージです。

ご購入いただいた二つボールのうち、一つは夢がかなうことを念じてご自宅に。
もう一つは母校の野球部に夢を託して寄贈させていただきます。

祝 同窓会

眼下に広がる李桃の里
四季折々の眺望
最高の一日をお届けします。



境川カントリー倶楽部

〒406-0851 山梨県笛吹市境川町小黒坂2266

ご予約・お問い合わせ

☎055-266-5012

<http://www.sakaigawacc.com>